

## 「言葉は世界をつなぐ平和の礎」

Languages are the foundation to link the world in peace.

神田外語グループはこの建学の理念に基づき、  
国際社会の一員として世界に貢献する  
意欲と能力を持つ人材を育成しています。

神田外語大学・神田外語学院を卒業して教員になられている皆さまの

### 懇親会を開催します！

卒業生の皆さま、ぜひご参加ください。

7/23(日) 神田外語大学にて

場所:8号館 ①15:20~ ②17:30~

7/30(日) 神田外語学院にて

場所:3号館7階 ①15:20~

※どちらの日程にご参加頂いても構いません。

上記日時(講座終了後)に、卒業生の皆さまが集う懇親会を開催します。本学教職員も参加予定ですので、先生方同士のネットワーク構築に、友人同士の話らいに、ぜひご利用ください。軽食を用意してお待ちしております。

**申込方法** ご参加可能な方は、講座お申し込み時に併せてお知らせください。 **参加費** 無料  
当日会場に直接お越し頂いても構いません。

**対象** 大学・学院を卒業されて教員になられている方。学校種別、科目等は一切問いません。  
児童英語教員等、スクールで活動されている皆さまも大歓迎です。

Presented by 神田外語グループ

# ENGLISH EDUCATION SEMINAR

英語教員対象

## 英語教育公開講座2017

Hot Issues in the Language Teaching  
言語教授における熱い話題

【開催地・開催日】

千葉 7/23(日) 神田外語大学  
(千葉県千葉市)

横浜 7/26(水) パシフィコ横浜  
(神奈川県横浜市)

静岡 7/28(金) グランシップ  
(静岡県静岡市)

東京 7/29(土)・30(日) 神田外語学院  
(東京都千代田区)

大宮 8/4(金) 大宮ソニックシティ  
(埼玉県さいたま市)

【基調講演】 7/29(土) ※無料  
大学入試における  
英語4技能評価の推進について

独立行政法人  
大学入試センター理事・副所長

伯井 美徳氏

#### お問い合わせ

お問い合わせについては、e-mailでイベント事務局までお送りください。

神田外語グループイベント事務局 (神田外語大学内)

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

e-mail event@kandagaigo.ac.jp

T E L 090-1126-5324 (10:00~17:00 ※土・日・祝祭日を除く)

U R L http://www.kandagaigo.ac.jp/eikyo/

**受講料** 1講座につき2,000円(税込) ※当日受付にてお支払いください。 ※基調講演は無料です。

**対象** 小学校・中学校・高等学校の先生方、英語教育関係者、英語・英語教育に関心のある方

**申込方法** インターネットの受講申込フォームをご利用ください。 <http://www.kandagaigo.ac.jp/eikyo/>

※インターネットが使用できない環境にある方は裏表紙の「神田外語グループイベント事務局」までお問い合わせください。

※各講座ともに、定員に達し次第受付を終了いたします。

【主催】



神田外語大学

30<sup>th</sup>  
Since 1987



神田外語学院

## 2017 Theme

### Hot Issues in the Language Teaching

# 言語教授における熱い話題

## 2017年度 英語教育公開講座 開講のあいさつ



神田外語英語教育公開講座コーディネーター  
神田外語学院教育部教育開発指導担当

## 長谷川 貢

今年も神田外語グループ主催の英語教育公開講座をご案内できることを大変嬉しく思います。毎年参加者の皆様アンケートにご協力いただき、希望する講座をお聞きしているのですが、ご希望が大変広範囲に渡り、多くの方のニーズにお応えできず申し訳なく思っております。そこで、今年の英語教育公開講座は、テーマを「Hot Issues in the Language Teaching / 言語教授における熱い話題」とし、近年注目されている以下のトピックをキーワードとし、それぞれの分野で先進的に取り組んでいる講師をお招きして開講したいと思います。取り上げるトピックは下記の7分野とし、講師の皆様にご提案いただきました。今回の公開講座は、参加者の皆様の幅広いニーズにいくつかはお応えできるのではないかと期待しています。なお、各講座の内容は、必ずしも下記のトピックのいずれかに特化しているわけではありません。授業は複数の要素を複合させて実施される方がむしろ普通であり、例えばアクティブラーニングやタスクベースラーニングの要素は授業に普通に混在するものです。いずれにしても、これからこれらのトピックを授業で実践したい方やすでに取り組んでいる方にとって大変参考となる良い機会となることを願っております。

また、基調講演には独立行政法人大学入試センター理事で同センターの副所長の伯井美徳(はくいよしのり)氏を迎え、2020年度に現在のセンター試験に代わり実施される予定の新共通テスト、および外部試験の活用について、導入の趣旨、方策、課題等についてお話し頂きます。特に、語学4技能の評価をどのように入試で扱うのかについては近年大変注目されています。

基調講演は7月29日土曜日10時より東京会場の神田外語学院で行われます。参加費は無料ですが、席数に限りがありますので、ご興味のある方は早めにホームページからお申し込みしていただくことをお勧めします。

なお、神田外語大学(7/23)および神田外語学院(7/29・30)の会場には多様な講座を用意しましたが、その他の会場(横浜7/26、静岡7/28、大宮8/4)では教室数の関係で講座数が限られてしまいます。どうぞご容赦ください。

今年も是非、お近くの会場で受講及び意見交換をしていただき、有意義な研修としていただければ幸いです。会場の皆様にお会いできることを楽しみにしております。

### ー 近年注目されているトピック ー

- I. 現役中学高校教員による授業実践例 (アクティブラーニング等の実践を含む)
- II. 授業ですぐ使えるアクティビティーのアイデア
- III. 英語教授法理論と実践
- IV. 外部試験(TOEIC TOEFL IELTS ケンブリッジ英検)の活用
- V. 内容言語統合型学習(CLIL)の実践例
- VI. 語学授業におけるICTの活用
- VII. コミュニケーションの評価(CAN-DO LIST, RUBRICS)の活用

※各講座のカテゴリーを、I～VIIに分類し表示してあります。

## 公開講座講師募集

### この公開講座にご興味をお持ちの中学・高校・塾・短大・大学に従事する先生方へ

神田外語グループ主催英語教育公開講座で日頃の研究をまとめて発表しませんか?皆さんの発表が他の先生の参考になり、つまりは英語教育全般のレベルを上げることになります。お問い合わせはeメールでプログラムコーディネーターの長谷川まで。

- (1) 講座内容や他の講座とのバランス等の理由によりご希望に応えられない場合があります。
- (2) 申込み多数の場合は次年度に繰り越される場合があります。
- (3) 交通費、宿泊費を支給いたします。
- (4) 応募、及びお問い合わせはeメールで hasegawa@kifl.ac.jp (長谷川)まで。

## ■ 会場・開催日一覧

### 千葉会場

神田外語大学  
〒261-0014  
千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

7/23 日

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

P.3

### 横浜会場

パシフィコ横浜 会議センター  
〒220-0012  
神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

7/26 水

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

P.11

### 静岡会場

グランシップ  
静岡県コンベンションアーツセンター  
〒422-8005  
静岡県静岡市駿河区池田79-4

7/28 金

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

P.13

### 東京会場

神田外語学院  
〒101-8525  
東京都千代田区内神田2-13-13

7/29 土  
30 日

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

P.15

### 大宮会場

大宮ソニックシティ  
〒330-8669  
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

8/4 金

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

P.23

## ■ お申し込み

### 受講料

1講座につき **2,000円**(税込) ※当日、会場にてお支払いください。 ※基調講演は無料です。

### 申込方法

インターネット受講申込フォームをご利用ください。▶ <http://www.kandagaigo.ac.jp/eikyo/>

※インターネットが使用できない環境にある方は裏表紙の「神田外語グループイベント事務局」までお問い合わせください。

※各講座ともに、定員に達し次第、受付を終了いたします。

### 申込締切日

ホームページからの事前申し込みは開催日の1週間前まで。講座に空きがある場合は当日受付も行います。

※満席の際はご希望の講座を受講いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

# 千葉 7/23 日

CHIBA

10:00~17:20 (受付開始 : 9:30)

# 会場

Time Schedule	10:00~12:00	AM
	13:00~15:00	PM1
	15:20~17:20	PM2

※昼食はご持参いただくか、学食をご利用ください。

主催 神田外語グループ

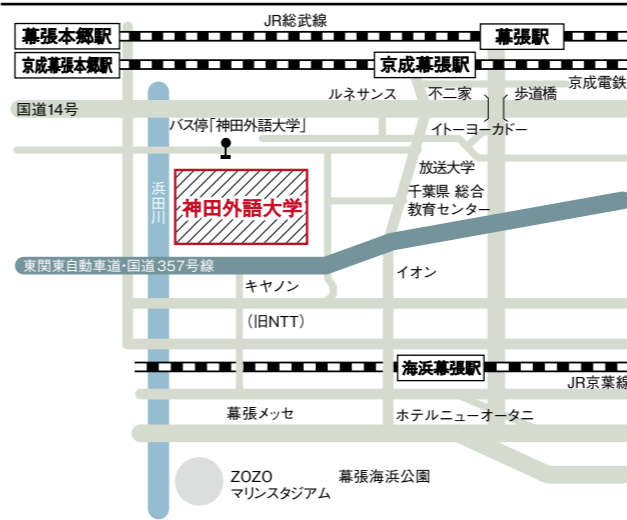
CH-1	黒沢 毅 くらさわ たけし 埼玉県立坂戸高等学校外国語科教諭	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Voice TrainingとICT活用で2学期の授業に差をつける!	講座カテゴリー	I		
CH-2	土屋 進一 つちや しんいち 埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭	定員 20名	AM	PM1	PM2
	コミュニケーション英語I~IIIの具体的指導例 ~ Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで ~	講座カテゴリー	I		
CH-3	Tim Murphey ティム マーフィー 神田外語大学外国語学部英米語学科教授	定員 20名	AM	PM1	PM2
	The Social Brain : Stimulating and Attracting It in Our Language Classes 社会脳:言語授業で社会脳を刺激・魅了する	講座カテゴリー	III		
CH-4	Anna Husson Isozaki アンナ H. イソザキ 順天堂大学国際教養学部講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Getting Literate in Literacy : New Research Findings for Reading and Listening 読める書ける能力をつける:「読む」「聴く」における新しい知見	講座カテゴリー	III		
CH-5	Jonathan Anzai 安西 ジョナサン / Jason Wolfe ジェイソン ウルフ 開智日本橋学園中学校・日本橋女学館教諭	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Learning Scratch from Scratch! 英語でプログラミング - スクラッチの基礎 -	講座カテゴリー	I・V・VI		
CH-6	Daniel George Dusza ダニエル G. ドゥーサ 神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Content and Language Integrated Learning Across the Japanese Curriculum for Beginners 日本人初級学習者のためのCLILカリキュラム	講座カテゴリー	V		
CH-7	Sean Green ショーン グリーン 神田外語学院専任講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Easy, Practical Activities to Improve Student Motivation and Participation 学習者の動機付けと積極的参加を促す簡単で実践的な学習活動	講座カテゴリー	II		
CH-8	府川 哲子 ふかわ てつこ 神田外語大学ELI 語学専任上級講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	オンライン教材をフル活用:目指せ発音の弱点克服	講座カテゴリー	II		
CH-9	Erin Morris エリン モリス 神田外語学院専任講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Inspiring Students to Write and Speak through Technology and Motivational Exercises テクノロジーと動機付け活動を使ってライティングとスピーキングを促す	講座カテゴリー	II		
CH-10	Re-Keisha Hibbert リキーシャ ヒバート 神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Practical Ideas for Delivering Effective Language Lessons to Elementary and Junior High School Students in Japan 日本の小中学校のための効果的な英語授業のアイデア	講座カテゴリー	II		
CH-11	Daniel George Dusza ダニエル G. ドゥーサ 神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Integrated Social-Media and Information Communications Technology in Japanese EFL Classes 日本のEFL授業で使えるソーシャルメディアとICTの統合活用	講座カテゴリー	VI		

講座カテゴリー I. 現役中学校高校教員による授業実践例(アクティブラーニング等の実践を含む) II. 授業ですぐ使えるアクティビティーのアイデア III. 英語教授法理論と実践  
IV. 外部試験(TOEIC TOEFL IELTS ケンブリッジ英検)の活用 V. 内容言語統合型学習(CLIL)の実践例 VI. 語学授業におけるICTの活用 VII. コミュニケーションの評価(CAN-DO LIST, RUBRICS)の活用

## 開催会場 神田外語大学

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1  
TEL:090-1126-5324 (開催事務局)  
http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/

## 受付 8号館1F

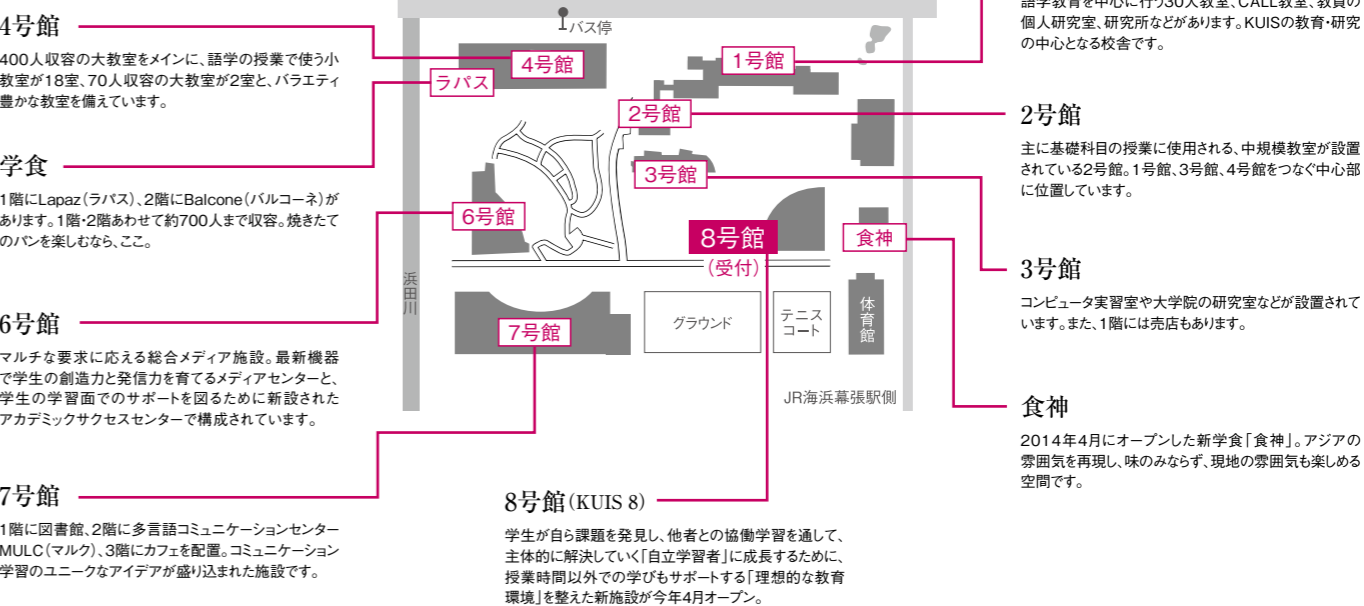


### 大学までの所要時間

JR京葉線「海浜幕張駅」	徒歩約15分 バス約5分(幕22系統/6番のりば) 神田外語大学下車
京成電鉄「幕張駅」	徒歩約15分
JR総武線「幕張駅」	徒歩約20分
JR総武線「幕張本郷駅」	バス約15分(幕21系統/6番のりば) 神田外語大学下車
京成電鉄「幕張本郷駅」	バス約8分(幕22系統*/5番のりば) 神田外語大学下車 バス約8分(イオン33系統*/5番のりば) 神田外語大学下車

\*幕22系統は、時刻表に「大」と記載のある時間のみ神田外語大学に停車。  
\*イオン33系統は、時刻表に「神BT」と記載のある時間のみ神田外語大学に停車。

### 校舎案内



CH-12	上原 雅子 うえはら まさこ 神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師	定員 20名	AM	PM1	PM2
	TOEFL, TOEIC, IELTS, TEAP, GTEC - 4技能型試験の指導のポイント	講座カテゴリー	IV		
CH-13	南部 匡彦 なんぶ ただひこ 国際短期大学国際コミュニケーション学科准教授	定員 20名	AM	PM1	PM2
	高大接続の視点からのTOEIC®学習の活用	講座カテゴリー	IV		
CH-14	青山 智恵 あおやま ともえ ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門 日本統括マネージャー	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Cambridge English Speaking Test (ケンブリッジ英語検定)の評価におけるルーブリックの実践 ~ スピーキング試験官認定トレーニングの一部体験と明日から使える授業のヒント ~	講座カテゴリー	IV		
CH-15	Andy Lankshear アンディー ランクシャー 郡山ザベリオ学園専任教員 神田外語大学児童英語教育研究センター研究員	定員 20名	AM	PM1	PM2
	Assessing Young Learners 子供の英語スキルを評価する	講座カテゴリー	VII		

## CH-1

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	I

### Voice TrainingとICT活用で2学期の授業に差をつける!

このワークショップでは教師の役割について改めてみなさんと一緒に考えながら、主に以下の5点について2学期からすぐに使っていただけるアクティビティをご紹介します。また、日々の実践の中で、生徒たちが主体的に取り組んでくれている様々な仕掛けについてもご紹介させていただきます。

- ① Ice Breaking Activity
- ② Pronunciation Drills (フォニックス)
- ③ Minimal Pair Dictation
- ④ Tongue Twisters
- ⑤ Let's Sing Out Loud Together!

スマートフォンをお持ちください。



**黒沢 毅** くろさわ たけし

埼玉県立坂戸高等学校外国語科教諭

#### ■ Profile

神田外語大学外国語学部英米語学科卒業後、米国ミズーリ州カンザシティ・グランドビュー高校にて日本語教師として勤務。帰国後、埼玉県内の公立高校にて採用。ろう学校、職業高校での勤務を経て、現在は県立坂戸高等学校外国語科の担任として8年目を迎える。また、平成27年から2年間に渡り、埼玉県の英語教育推進リーダーとして、また英語教育達人セミナーなどにおいても教員対象セミナーや公開授業などにも取り組んでいる。

#### ■ Message

「4技能」「アクティブラーニング」「ICT活用」「英語で授業」など、英語教員には常に多くが求められています。10年ほど前までは講義形式での授業が多かった私も、Learning Pyramidに出会ってから授業改革に取り組んできました。「教師でなく、生徒がいかに英語を使って活動するか?」また、「生徒が主体的に活動し、効果的な英語習得のためにICTでできることは?」といった内容に関して、公立高校でもできる日頃の実践をご紹介します。

## CH-2

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ／研修
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	I

### コミュニケーション英語I～IIIの具体的指導例

#### ～Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで～

本講座では、高校1年～2年までのコミュニケーション英語I・IIの授業と高校3年のコミュニケーション英語IIIの指導例を提示します。具体的には、英文の内容理解後のRetelling や Presentationを成功させるための仕掛け作りや指導の工夫、CLIL型の授業、入試問題を使った生物×英語の教科横断型授業を取り上げ、実際の授業の様子や生徒のプレゼンテーションの様子を視聴してもらう予定です。



**土屋 進一** つちや しんいち

埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭

#### ■ Profile

法政大学大学院修了。現在、埼玉県私立西武学園文理高等学校に勤務。15年目。2005年 埼玉私学教育研究所 英語教育研究会 授業研究会 授業者。埼玉私学教育研究所 平成17年度 紀要「セマンティック・マッピングと音読重視の授業」数研出版「CHART NETWORK 83号」2017年9月「入試問題をういた教科横断授業(生物×英語)」掲載予定。

#### ■ Message

昨年の講座では、コミュニケーション英語I・IIの授業において、4技能を効率良く取り入れながら、Retelling や Presentationの具体的な指導例を提示しました。今回の講座では、コミュニケーション英語IIIの授業にも焦点を当て、教科書本文を指導する際の教材研究のポイントや内容理解後のプロダクション活動への指導方法について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

## CH-3

対象	小学校・中学校・高校教員
講義タイプ	レクチャー／ワークショップ／ディスカッション
講義言語	英語
講座カテゴリー	III

### The Social Brain : Stimulating and Attracting It in Our Language Classes

#### 社会脳・言語授業で社会脳を刺激・魅了する

This presentation will look at simple neuroscience findings to help teachers understand why it is crucial to create a safe and welcoming environment for students to challenge themselves within. No previous knowledge about neuroscience is necessary. If you are a caring teacher and want to understand your students better, please come. I will also offer many activities that you could do in your classes to help low level learners engage themselves in more communication and expand their learning potentials, while at the same time engaging advanced learners in the classroom.

Come ready to interact with partners, move a bit, and sing a bit! And to have lots of fun.



**Tim Murphey** ティム マーフィー

神田外語大学外国語学部英米語学科教授

#### ■ Profile

Tim Murphey (PhD Université de Neuchâtel, Switzerland) is co-author of Group Dynamics in the Language Classroom (OUP), co-editor with Jane Arnold of Meaningful Action (CUP) and the author of Teaching One to One, Music and Song, Language Hungry!, The Tale that Wags, and Teaching in Pursuit of WOW!

#### ■ Message

Welcome! I have been training teachers for 40 years and teaching students for 45. I love teaching and I love working with teachers. I will try my best to adjust to your needs and desires and to understand how I can best help you have the kind of classes that help students optimally, keeping them safe and excited about learning.

## CH-4

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	レクチャー／ワークショップ／ディスカッション
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	III

### Getting Literate in Literacy : New Research Findings for Reading and Listening

#### 読める書ける能力をつける:「読む」「聴く」における新しい知見

Many students in Japan are doing their best and always intending to try harder. Still however, their TOEIC and TOEFL scores are not improving and reading in English is more torture than fun (Masuhara, 2007). Takeuchi (2003) has investigated and shown clearly what successful learners do and what unsuccessful learners do. New brain research and new classroom research have since clarified what really is necessary for building smooth, fast reading and better listening, but these studies are still not yet widely known. This workshop will provide a quick update that will show ways to help students prepare for these reading and listening-dominant tests and for the real-life reading and listening the tests are intended to assess. Participants will then work with and explore new, free or low cost resources on the Internet and off, for themselves, and will have opportunities to become comfortable with and discuss with other participants what resources will work most effectively in their own contexts and teaching.

Please bring a notebook and pen, and an Internet-connecting device if possible, and USB. Please bring your email address also. Some work in the session will be done by exploring and discussing websites so it will be important to be able to see screens clearly, use sites, and "show and tell" to other participants in your group, as well as save or bookmark what you find useful.

## CH-5

対象	小学校・中学校・高校教員・プログラミングに挑戦したい方
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	I・V・VI

### Learning Scratch from Scratch!

#### 英語でプログラミング –スクラッチの基礎–

このワークショップでは、Scratch(メディアラボが作成した初心者用無料プログラミングソフト)を使いながらプログラミングの基礎知識をお教えます。参加者は、内容言語統合学習を通じて、簡単なアニメーション、ゲームやオリジナルのクイズプログラムを学びます。また、プログラミングの実践を通して、問題解決能力を身につけられます。

- ステージI (30分) Scratchの基礎
- ステージII (30分) グループで初めてのゲームプログラムを作る
- ステージIII (40分) マイ・ファスト・プログラム!
- ステージIV (20分) Show and Tell (ミニ発表会)

## CH-6

対象	小学校・中学校教員
講義タイプ	レクチャー
講義言語	英語
講座カテゴリー	V

### Content and Language Integrated Learning Across the Japanese Curriculum for Beginners

#### 日本人初級学習者のためのCLILカリキュラム

During this interactive seminar, participants will be introduced to a wide-range of program types and contexts comprising content-and-language integrated learning (CLIL).

First, an instructional approach that integrates both language and content will be presented. This will form the basis for reflecting critically on established pedagogical practices, which focus predominantly on content, and the expectation that learners simply 'pick up' the language.

- Topics include:
1. Contrasting features of CLIL and other approaches.
  2. Pedagogical issues relating to a 'counterbalanced approach' that integrates both language and content.
  3. Scaffolding techniques in response to learners' language production that includes when, what, and how to correct.
  4. Appreciation of the importance that scaffolding has in supporting student participation while holding oral interaction as the key source of learning.
  5. Planning noticing and awareness activities, followed by providing guided and independent practice.

The seminar will include interactive lecture segments, followed up by questions and tasks, which participants will acquire from content covered in the seminar. Participants will develop an understanding how shifting learners' attention between content and language increases depth of processing and strengthens metalinguistic awareness. Finally, participants will examine the importance of teacher collaboration in the future success of CLIL in Japanese schools.

Please bring iPads or Smartphones.



**Anna Husson Isozaki** アンナ H. イソザキ

順天堂大学国際教養学部講師

#### ■ Profile

BA with honors Mount Holyoke College  
MA Sheffield University  
Certificate in Journalism, University of Massachusetts  
MA TESOL Kanda University of International Studies

#### ■ Message

Our students are trying hard, so why don't they see good improvements in their English and on their English tests? New research shows it is not the fault of students or teachers. There are simple, better ways for the brain to learn, and there are many new low cost and free ways to effectively use the research with active learning, and improve the learning picture for our students.



**Jonathan Anzai** 安斎ジョナサン (左)

**Jason Wolfe** ジェイソン ウルフ (右)

開智日本橋学園中学校・日本橋女学館教諭

#### ■ Profile

安斎ジョナサン(教諭)は現在国際バカロレアの候補校(中等教育プログラム)で英語と社会を教え、さらにICT推進チームを担当しています。ジェイソンウルフは同じ中学校で、英語と技術・家庭科(デザイン)を担当しています。

#### ■ Message

皆さんは技術がお好きでしょうか。プログラミングの基礎を学びたいと思ったことはありますか。ぜひ新しい技能を身につけ、教育の現場で活かしてください。このワークショップでは、プログラミングの基礎を学ぶと共に実際にプログラミングを経験することでしっかりと技能を身につけることができます。未経験者大歓迎です。失敗を恐れずみんなで楽しく学び合いましょう。学ぶことは何歳からでも遅すぎることではありません。年齢は問いませんので、ぜひたくさんの方に参加頂きたいと思ます。



**Daniel George Dusza** ダニエル G. ドゥーサ

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師

#### ■ Profile

Daniel G. Dusza. MEd, MBA, MPM, BEng  
Master of Education TESOL/TEFL – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Business Administration – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Project Management – University of Southern Queensland, Australia.  
Bachelor of Engineering (Computing and Biomedical Engineering - University of Southern Queensland, Australia.

#### ■ Message

Participants will be introduced to a wide range of program types and contexts comprising content-and-language integrated learning (CLIL). Benefits and challenges of learning language through content will be presented based on empirical research in primary, secondary and tertiary classes. This research supports an instructional approach that integrates both focus on language and content. This interactive seminar proposes that for CLIL to reach its full potential in developing high levels of target language proficiency, it must be both language-rich and discourse-rich.

## CH-7

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	II

### Easy, Practical Activities to Improve Student Motivation and Participation 学習者の動機付けと積極的参加を促す簡単で実践的な学習活動

Warm up – Activity for pronunciation and tongue twister.  
Interview – Interviewing a classmate using a worksheet.  
Writing – Writing a short introduction of your partner, using a template.  
Peer Review – Having another student review and ask questions.  
Lecture / Demo – Several ways of sharing, including class newsletter or website will be demonstrated.  
Haiku Writing – Learning about meter and rhyme.  
Vocabulary Cards - Creativity and Thinking outside the box \*if time allows.

## CH-8

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	II

### オンライン教材をフル活用：目指せ発音の弱点克服

このワークショップでは大学で実際に教えている発音のクラスの教材一学期分を使用しながら、各国特有の、所謂アクセントを習得するのではなく、いかに国際英語としての他者に理解してもらえる英語発音に近づけるかという所を目標に行います。教材は多様な物を使用し、オンライン教材と配布資料で、最初に日本人が不得意とする内容について学習し、その学習内容をアクティビティーなどで実践していただき、自身の発音の弱点を見つけ、それを改善するというものです。取り上げる内容は以下の通りです。  
Stress in words and sentences, /r/ & /l/, vowels, connected speech, "th" sounds & other difficult consonants.

普段使用しているイヤホン／ヘッドホンが有ればご持参ください。

## CH-9

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	II

### Inspiring Students to Write and Speak through Technology and Motivational Exercises テクノロジーと動機付け活動を使ってライティングとスピーキングを促す

As we move forward into a more globalized world, English is becoming increasingly important for Japanese students to actually acquire. This collaborative workshop aims to help teachers motivate their students to learn English through speaking and writing activities. Teachers will have the opportunity to participate in some discussions on their experiences and help one another find solutions to common classroom obstacles.

This workshop will also explore the importance of universal design learning and how to create classroom lessons that will help a greater number of students learn through different creative and practical methods.

This program will be broken up into two parts, with one hour focused on speaking activities and the other on writing activities. During the writing portion, we will concentrate on the benefits of fluency writing and show the motivational effects it can have in the classroom. By using technology as a tool, teachers have the chance to change both the experiences and the opinions that students have when writing in English. The speaking segment will also feature technological and traditional activities that can be used in either small or large classrooms, in order to inspire and motivate students to learn.

1. Please bring some extra paper and a pen or pencil with you to the session.
2. It is not required, but if possible please also bring a smartphone/a technological device (iPad, tablet, etc.)



### Sean Green ショーン グリーン

神田外語学院専任講師

#### ■ Profile

EIC Instructor, supervisor of TOEIC Speaking / Writing Test Courses. I have been teaching in Japan for more fifteen years, and have taught all levels and ages, from children and junior-senior high school students to post-secondary students and professionals. My background is in journalism and marketing and I especially enjoy teaching writing.

#### ■ Message

Do you sometimes have trouble keeping students motivated and interested? This workshop will give you fun, easy-to-run activities proven to work. They will promote communication and learning and include everything you need to go back and use them in the classroom. Includes a warm-up, a peer interview activity, writing and peer-review activities and much more!



### 府川 哲子 ふかわ てつこ

神田外語大学ELI 語学専任上級講師

#### ■ Profile

神奈川県出身、都内私立大学文学部英文学科を卒業後、中学校・高等学校英語科の教員免許を取得。在学時には米国州立大学で英語教育学部にて交換留学生として1年在籍。米国 Monterey Institute of International StudiesにてMA TESOLを取得後、神田外語大学English Language Institute (ELI)にて勤務。現在はELI語学専任上級講師、及び、ELIプロジェクトコーディネーターとして教鞭をとり、研究を行い、カリキュラムと指導要綱の考案に携わる。

#### ■ Message

神田外語大学ELIの府川です。毎年沢山の方に私のワークショップに参加していただき、感謝申し上げます。今年のワークショップでは、「今後英語教育を英語で行う」という指導方法で多くの教員の方が心配要素と捉えている「発音」に注目し、教員のスキルアップを中心に展開したいと考え、教員の英語発音向上を目的とした2時間集中講座を行います。勿論、そのままクラスで使える生徒用の発音アクティビティー等も紹介します。毎年同様、参加者の希望をなるべく取り入れたいと思っていますので、発音に関する疑問、心配事等を是非講座に持ってきてください。



### Erin Morris エリン モリス

神田外語学院専任講師

#### ■ Profile

Erin Morris is currently a Full-time English Lecturer at KIFL. She is a former ESL middle school teacher and has experience teaching English to students of several different age levels.

#### ■ Message

Hello, My name is Erin Sachiko Morris. Please call me Erin or Sachiko. In my workshop, I hope to help you develop a classroom centered around Universal Design Learning, while providing successful activities to help motivate your students. This interactive workshop will feature writing and speaking activities that participants will be able to experience first-hand. My goal is to help you cultivate a classroom that not only inspires your students, but also changes the way they think about learning English.

## CH-10

対象	小学校・中学校教員
講義タイプ	レクチャー／ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	II

### Practical Ideas for Delivering Effective Language Lessons to Elementary and Junior High School Students in Japan 日本の小中学校のための効果的な英語授業のアイデア

In this lecture/workshop session, we will talk about ways that teachers can enhance their English lessons and provide a 'natural' environment for students to think and learn in English. The following areas will be discussed:

1. Working effectively alongside your Assistant Language Teacher (ALT) to deliver language lessons. If there is good communication between the JTE and the ALT, English lessons can go smoothly. Learn how to the most out of your ALT's presence inside and outside of the classroom.
2. Incorporating reading/writing in elementary school lessons. Many students entering junior high school struggle with reading and writing. English lessons in elementary schools (usually) do not include any formal reading or writing skills. Elementary school Homeroom Teachers (HRTs) can help students learn these skills. Learn how to add these important skills in English lessons.
3. Bringing English to life through 'real situations'. Textbooks are good for passing tests but not always good for real life English communication. Besides, they can be quite boring! Learning a second language is hard. However, with the right environment, it can be fun and rewarding. Discover interesting ways to add life to your English lessons and get students chatting away in English!

## CH-11

対象	小学校・中学校教員
講義タイプ	レクチャー
講義言語	英語
講座カテゴリー	VI

### Integrated Social-Media and Information Communications Technology in Japanese EFL Classes 日本のEFL授業で使えるソーシャルメディアとICTの統合使用

Social media started out as an exciting way to connect with friends, but has now evolved into a powerful educational tool. New and exciting ways of using social media including Facebook, Twitter, and Skype will be explored in this workshop, within the context of Japanese elementary students' learning opportunities.

The session will first, include an interactive lecture defining current technology and terminology used in information and communications technology (ICT). Second, an overview of popular social media will be presented in the context of its effectiveness to second language education in Japan. This overview will be followed by a brief lecture on technology integration including these topics.

1. What is integration is and how should it transform learning?
2. How to assess ICT and e-materials.
3. Teacher integration experiences from empirical research.

These items form the stimulus to main workshop activities.

1. Discussion on participants' integration experiences.
2. ICT integration approach to an elementary school English lesson-plan.
3. Final discussion.

This workshop addresses issues that underpin effective ICT integration in Japanese English Language (EFL) classes, across the entire English Foreign Language curriculum. Given the MEXT (2013) directive to introduce English education from Grade-3, this workshop has significance to all EFL teachers.

Please bring iPads or Smartphones.



### Re-Keisha Hibbert リキーシャ ヒバート

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師

#### ■ Profile

Instructor at Kanda Institute of Foreign Languages. Master of Education in Educational Administration (University of the West Indies, Mona, Jamaica, W.I.); Bachelor of Science in International Relations (major) and Public Administration and Political Science (minors) (University of the West Indies, Mona, Jamaica, W.I.).

#### ■ Message

Hi! My name is Re-Keisha Hibbert. I worked as an ALT for 8 years in elementary and junior high schools in Kisarazu (Chiba) and Kimitsu (Chiba). I learned many things during that time, and I would like to share them with you. We will chat, share information and ideas, have fun (it's summer!), and most importantly, discover effective ways of delivering English language lessons that will help students excel at speaking, writing and reading in English.



### Daniel George Dusza ダニエル G. ドゥーサ

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師

#### ■ Profile

Daniel G. Dusza. (MEd, MBA, MPM, Beng)  
Master of Education TESOL/TEFL – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Business Administration – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Project Management – University of Southern Queensland, Australia.  
Bachelor of Engineering (Computing and Biomedical Engineering - University of Southern Queensland, Australia.

#### ■ Message

Social media has emerged as a powerful educational tool. However, integrating these information communication technologies (ICT) requires preparation and resources, and involves risks, that have not been adequately addressed in the Japanese context. Given that English education will start earlier in Japanese elementary schools, it is imperative that every teacher be aware of the specific opportunities and benefits available to these younger learners. This workshop introduces inspirational and effective approaches to integrated technology and social-media in Japanese school EFL lessons.

## CH-12

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	IV

### TOEFL, TOEIC, IELTS, TEAP, GTEC ー 4技能型試験の指導のポイント

- 1) Readingー短いアカデミックな文章を読み、和訳を介さずに内容把握する方法を考えます。
- 2) Writingー100ワード程の長さの自分の意見を述べるパラグラフを書き、パラグラフ構成、具体例の出し方などを確認します。また教師の負担をなるべく少なくする、クラス規模での指導方法も提案します。
- 3) Listening & Speakingー短いパッセージを聞いて、その内容について話す2技能統合型の練習を行います。またListening, Speakingの指導法も扱います。

携帯電話、スマートフォン、その他録音機器をお持ちでしたらご持参ください。



上原 雅子 うえはら まさこ

神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師

#### ■ Profile

神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師。University of Connecticut卒業。King's College, London MA in English Language Teaching and Applied Linguistics 修士課程修了。The New School University TEFL(Teaching English as a Foreign Language) Certificate 取得。大学その他でTOEFL指導、4技能統合型の指導に携わる。著書に「大学入試「英語4技能」試験対策Writingスキルが高まる必修ポイント10」くもん出版、「大学入試「英語4技能」試験対策Speakingスキルが高まる必修ポイント8」くもん出版、「最強のTOEFL iBT入門」コスモビア、「頂上制覇TOEICテストピーキング/ライティング究極の技術」研究社などがある。

#### ■ Message

2020年の大学入試改革に向け、TOEFL, TEAP, IELTS, GTEC, TOEIC R/L&S/Wなどの4技能型試験の利用が広がってきています。これらのテストでは聞く、読む能力に加え、自分の意見を自分の言葉で正しく伝える力、情報を整理して正しく伝えられる力などが試されます。このワークショップでは、実際に課題をこなしながら、多数のクラスでのライティング指導の提案、短いパッセージを聞いて、その内容について話す2技能統合型の練習、和訳を介さないReadingの指導について、クラスでどのような指導が可能か考えます。

## CH-14

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	レクチャー／ディスカッション
講義言語	日本語
講座カテゴリー	IV

### Cambridge English Speaking Test(ケンブリッジ英語検定)の評価におけるルーブリックの実際 ー スピーキング試験官認定トレーニングの一部体験と明日から使える授業のヒント ー

昨年、過去1年間の日本における英語関連の検索ワードの中で「ケンブリッジ英語検定」が上位に入るなど、確実に注目を浴びてきている背景には、次期学習指導要領で示されている5領域や大学入試の改革を見据えた英語4技能外部試験の活用の拡がりがあります。本講座では、次のような内容を中心にお届けします。

- ・CEFR完全準拠「ケンブリッジ英語検定」の特長に関するプレゼン(CEFRとの関係、学習指導要領との親和性、国際比較、パフォーマンス評価基準等)
- ・次期学習指導要領を先取りした、対面式ペア型面接のご紹介と、スピーキングテストの試験官用トレーニング疑似体験(小グループでディスカッション)

また、長年指導主事として英語の先生の指導スキル向上に携わってこられた北星学園大学短期大学部講師の白鳥金吾先生にご登壇いただき、ケーススタディの発表をしていただきます。英語の先生の視点でケンブリッジの試験ならびに教材unlockを紹介いただくことで、4技能評価の重要性や、アクティブラーニングのための教科書の利用についてお話し頂く予定です。

- その他、ケンブリッジのサイトにある無償教材に関する情報をいくつかご紹介させていただきます。
- 【例】
- ・無料の自動添削WebシステムWrite & Improveの授業内外での活用(ライティング対策)
  - ・バーチャルリアリティー技術を活用したスピーキングテスト対策(553語)

個人情報の関係上、録音・録画はご遠慮ください。



青山 智恵 あおやま ともえ

ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門 日本統括マネージャー

#### ■ Profile

筑波大学第一学群人文学類卒業。民間企業勤務後、英国バース大学にてM.A.取得。約10年間のプリティッシュ・カウンシル勤務を経て、現在ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門日本統括マネージャーとしてCEFR完全準拠のCambridge English(ケンブリッジ英語検定)の販促、日本市場向け自動採点による4技能CBT英語試験の開発等に携わる。文部科学省「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」委員。

#### ■ Message

英国の大学院でケンブリッジ英語検定に出会い、「これぞ死角なしの英語運用能力試験!」と実感して以来、現在ではその魅力をお伝えする役目を担っています。次期学習指導要領では国の指標形式の目標において4技能がさらに進化して5領域になる予定ですが、ケンブリッジ英語検定のスピーキングテストは国際基準(CEFR)に照らして「話すこと(やりとり:interaction)」、「話すこと(発表:production)」が既に測定領域として取り入れられているため、新学習指導要領にも対応済みといえます。現在、外部試験を入試に活用する大学の多くが基準に用いているCEFRのB1とはどんなレベル?CEFRの開発に貢献しているケンブリッジだからこそ示せる基準を体感してみてください。

## CH-13

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	IV

### 高大接続の視点からのTOEIC®学習の活用法

この講座では、まず英検やセンター試験との相違点を徹底的に明確にしなが、TOEIC®で出来ること、出来ないこと」をまずご説明させていただきます。そして特に以下の視点を通じて、生徒が英語コミュニケーションへの関心を高めつつTOEIC®スコアを上げるための指導法をご紹介します。

- ・TOEIC®リスニングセクションのペアワーク学習を通じた日常会話力向上
- ・カタカナ(借用)頻出語とTOEIC®学習
- ・頻出句動詞を活用したTOEIC®語彙学習方略
- ・機能語と内容語に焦点を当てたTOEIC®リスニング指導
- ・TOEIC®音声教材作成における音声編集ソフトの活用の紹介



南部 匡彦 なんぶ ただひこ

国際短期大学国際コミュニケーション学科准教授

#### ■ Profile

慶応義塾大学環境情報学部卒業。慶応義塾大学大学院修了。欧州にて約10年間、民間コンサルティング企業での勤務を経て帰国、大学及び専門学校にて英語・仏語・ビジネス専門教育に従事。2013年より現職、主にTOEIC®科目を担当。一般社団法人日本メディア英語学会理事。研究分野は、リスニング、借用語研究、異文化コミュニケーション。

#### ■ Message

TOEIC®は中学校・高等学校では導入事例がまだ少ないので、就活や大学・企業で主に活用されている外部テストというイメージが中学校・高校教員の皆様にはまだ支配的かもしれません。しかし、「日常生活と職場での英語コミュニケーション能力を測定する」TOEIC®テストを高大接続の観点から俯瞰した場合、「読む・書く・聞く・話す」の4技能のバランス良い指導を可能にする有効なツールとも実は捉えることが出来ます。この講座では、受講者の皆様とワークショップを通じて、生徒が英語学習にアクティブに取り組める仕掛けとしてのTOEIC®英語教育導入の可能性を共に考えて行きたいと思えます。

## CH-15

対象	小学校・中学校・英会話講師
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	VII

### Assessing Young Learners 子供の英語スキルを評価する

In this workshop I will argue that the assessment of young learners requires different approaches and activities to those that are used with teenagers. This workshop will start by introducing you to the characteristics of young learners; specifically their levels of literacy, their vulnerability as beginning learners, and their social and cognitive development. I will then introduce to you assessment practices and activities that are: targeted at their correct literacy levels; designed to increase success; and appropriate for their social and cognitive developmental stages. These assessment practices will include formal, anecdotal and self-assessment activities. I will provide you with examples of each of these types that you can easily use in your classrooms. This workshop will be useful for elementary school teachers who are concerned about how to assess their students for learning and for reporting as required under the expectations of the new curriculum. If you want to be able to give your students the fairest grade according to their abilities and their potential, then please come to join this training session.

1. Can understand some spoken academic English.
2. Can communicate in group tasks using English.



Andy Lankshear アンディー ランクシャー

郡山ザベリオ学園専任教員 神田外語大学児童英語教育研究センター 研究員

#### ■ Profile

Andy Lankshear has been teaching English in Japan since 1998. He was also a primary school teacher in New Zealand and has a MEd from Massey University. Andy is developing elementary teacher training modules as a visiting researcher at the Centre for Teaching English to Children at Kanda University.

#### ■ Message

With the introduction of English as a subject for fifth and sixth grades from 2020, you may be concerned about how to assess your students fairly and in a way that motivates them to continue to learn. In this session you will review the characteristics of young learners and be introduced to assessment activities that are suitable for them and the goals of the new curriculum.

# 横浜 7/26 水

YOKOHAMA

# 会場

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

Time Schedule	10:00~12:00 AM	YO-1 / YO-3
	13:00~15:00 PM1	YO-2 / YO-3
	15:20~17:20 PM2	YO-1 / YO-4

※「AM」と「PM1」を続けて受講される方には、お弁当をご用意いたします。

主催 神田外語グループ

YO-1	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	ワークショップ/研修
	講義言語	英語・日本語
	講座カテゴリー	I

## コミュニケーション英語I~IIIの具体的指導例 ~Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで~

本講座では、高校1年~2年までのコミュニケーション英語I・IIの授業と高校3年のコミュニケーション英語IIIの指導例を提示します。具体的には、英文の内容理解後のRetelling や Presentationを成功させるための仕掛け作りや指導の工夫、CLIL型の授業、入試問題を使った生物×英語の教科横断型授業を取り上げ、実際の授業の様子や生徒のプレゼンテーションの様子を視聴してもらう予定です。



土屋 進一 つちや しんいち

埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭

### Profile

法政大学大学院修了。現在、埼玉県私立西武学園文理高等学校に勤務。15年目。2005年 埼玉私学教育研究所 英語教育研究会 授業研究会 授業者。埼玉私学教育研究所 平成17年度 紀要「セマンティック・マッピングと音読重視の授業」数研出版「CHART NETWORK 83号」2017年9月「入試問題を用いた教科横断授業(生物×英語)」掲載予定。

### Message

昨年の講座では、コミュニケーション英語I・IIの授業において、4技能を効率良く取り入れながら、Retelling や Presentationの具体的な指導例を提示しました。今回の講座では、コミュニケーション英語IIIの授業にも焦点を当て、教科書本文を指導する際の教材研究のポイントや内容理解後のプロダクション活動への指導方法について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

YO-2	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー/ワークショップ
	講義言語	英語
	講座カテゴリー	III

## Principles and Practices for Engagement in the Language Classroom 言語授業運営の原則と実践

This session will introduce teachers to basic principles for promoting engagement – goal setting; balancing challenge and skill; and providing feedback -- that they can apply in planning their lessons. We will try out some activities designed with these principles in mind and discuss how effective they are at creating engagement. I will also talk about how a regular program of asking students questions about their learning can help engage both teacher and students, and present a procedure for sharing results with students in order to build stronger relationships with them. We will work together on generating a list of questions that can be used by teachers in many classes.



William Snyder ウィリアム スナイダー

神田外語大学大学院言語科学研究科英語学専攻 MA TESOL Program 特任教授

### Profile

William Snyder has worked in teacher education for over 20 years in different countries. His interests center on promoting reflective practice for teachers and classroom engagement for both teachers and students. He is the coordinator of the JALT Teacher Development Special Interest Group.

### Message

Hello! I'm looking forward to sharing some ideas about how create an engaging classroom environment for students and for yourself as a teacher. I invite any teachers who are interested in trying new ways to plan lessons for more active learning and who want to build stronger relationships with their students to attend this session.

## 開催会場 パシフィコ横浜 会議センター

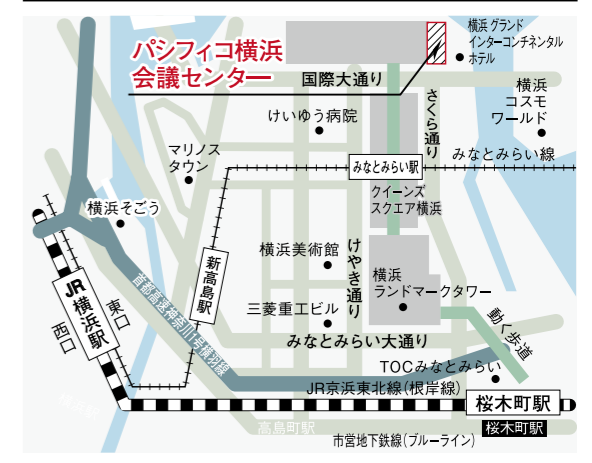
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL:090-1126-5324 (開催事務局)

<http://www.pacifico.co.jp>

■ みなとみらい線みなとみらい駅より徒歩約5分、JR線・市営地下鉄 桜木町駅より徒歩約12分  
※駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

## 受付 4F 小会議室418前



YO-3	対象	小学校・中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー/ワークショップ/ディスカッション
	講義言語	英語
	講座カテゴリー	III

## The Social Brain : Stimulating and Attracting It in Our Language Classes 社会脳:言語授業で社会脳を刺激・魅了する

This presentation will look at simple neuroscience findings to help teachers understand why it is crucial to create a safe and welcoming environment for students to challenge themselves within. No previous knowledge about neuroscience is necessary. If you are a caring teacher and want to understand your students better, please come. I will also offer many activities that you could do in your classes to help low level learners engage themselves in more communication and expand their learning potentials, while at the same time engaging advanced learners in the classroom.

Come ready to interact with partners, move a bit, and sing a bit! And to have lots of fun.



Tim Murphey ティム マーフィー

神田外語大学外国語学部英米語学教授

### Profile

Tim Murphey (PhD Université de Neuchâtel, Switzerland) is co-author of Group Dynamics in the Language Classroom (OUP), co-editor with Jane Arnold of Meaningful Action (CUP) and the author of Teaching One to One, Music and Song, Language Hungry!, The Tale that Wags, and Teaching in Pursuit of WOW!

### Message

Welcome! I have been training teachers for 40 years and teaching students for 45. I love teaching and I love working with teachers. I will try my best to adjust to your needs and desires and to understand how I can best help you have the kind of classes that help students optimally, keeping them safe and excited about learning.

YO-4	対象	小学校・中学校・高校教員
	講義タイプ	ワークショップ
	講義言語	英語
	講座カテゴリー	III

## Classroom Tasks for English Learners: Design Principles, Teacher Roles, and Assessment 英語学習者のための学習課題作成の原則、教員の役割、及び評価

Task-based language teaching (TBLT) is a research-based approach to language pedagogy centered on meaning-making, communication, and clearly defined outcomes. Ideally, communication tasks are designed to engage student thinking and support real-world language use. Communication tasks can foster receptive (listening and reading) and/or productive (speaking and writing) skills in a foreign language. Furthermore, TBLT is compatible with contemporary approaches to classroom language assessment and the use of technology in education. This workshop aims to: (1) familiarize participants with principles of task design, (2) help them critique examples of tasks, and (3) introduce them to task-based assessment (i.e., using can-do statements). Workshop participants will learn about these areas by actively listening to brief lectures. They will also apply concepts introduced during the workshop in small groups and evaluate material that could be used in their classrooms. Various sample materials will be presented and discussed in order to enhance participants' understanding. There will be consideration of recent research; however, the focus throughout will be heavily practice-oriented. This workshop considers practical innovations based on TBLT that can be implemented in English as a foreign language classrooms in Japan.



Daniel Jackson ダニエル ジャクソン

神田外語大学外国語学部英米語学准教授

### Profile

Daniel received his Ph.D. in Second Language Studies from the University of Hawaii at Manoa and his M.S. in Education/TESOL from the Graduate School of Education at the University of Pennsylvania. He is currently an Associate Professor in the English Department at Kanda University of International Studies.

### Message

Please join this workshop if you are interested in learning about how to use tasks to enhance your teaching and your students' learning and if you would like to meet others who share your interest. In keeping with task-based principles, I hope to encourage you to think and to communicate so that you arrive at viable means of implementing the ideas we discuss in your own classrooms.

# 静岡 7/28 金

SHIZUOKA

# 会場

10:00~17:20 (受付開始 : 9:30)

Time Schedule	10:00~12:00	AM	SH-1 / SH-2
	13:00~15:00	PM1	SH-3 / SH-4
	15:20~17:20	PM2	SH-1 / SH-4

※「AM」と「PM1」を続けて受講される方には、お弁当をご用意いたします。

主催 神田外語グループ

SH-1	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	ワークショップ／研修
	講義言語	英語・日本語
	講座カテゴリ	I

## コミュニケーション英語I~IIIの具体的指導例 ~Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで~

本講座では、高校1年~2年までのコミュニケーション英語I・IIの授業と高校3年のコミュニケーション英語IIIの指導例を提示します。具体的には、英文の内容理解後のRetelling や Presentationを成功させるための仕掛け作りや指導の工夫、CLIL型の授業、入試問題を使った生物×英語の教科横断型授業を取り上げ、実際の授業の様子や生徒のプレゼンテーションの様子を視聴してもらう予定です。



土屋 進一 つちや しんいち

埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭

### ■ Profile

法政大学大学院修了。現在、埼玉県私立西武学園文理高等学校に勤務。15年目。2005年 埼玉私学教育研究所 英語教育研究会 授業研究会 授業者。埼玉私学教育研究所 平成17年度 紀要「セマンティック・マッピングと音読重視の授業」数研出版「CHART NETWORK 83号」2017年9月「入試問題を用いた教科横断授業(生物×英語)」掲載予定。

### ■ Message

昨年の講座では、コミュニケーション英語I・IIの授業において、4技能を効率良く取り入れながら、Retelling や Presentationの具体的な指導例を提示しました。今回の講座では、コミュニケーション英語IIIの授業にも焦点を当て、教科書本文を指導する際の教材研究のポイントや内容理解後のプロダクション活動への指導方法について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

SH-2	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ワークショップ
	講義言語	英語
	講座カテゴリ	III

## Principles and Practices for Engagement in the Language Classroom 言語授業運営の原則と実践

This session will introduce teachers to basic principles for promoting engagement – goal setting; balancing challenge and skill; and providing feedback -- that they can apply in planning their lessons. We will try out some activities designed with these principles in mind and discuss how effective they are at creating engagement. I will also talk about how a regular program of asking students questions about their learning can help engage both teacher and students, and present a procedure for sharing results with students in order to build stronger relationships with them. We will work together on generating a list of questions that can be used by teachers in many classes.



William Snyder ウィリアム スナイダー

神田外語大学大学院言語科学研究科英語学専攻 MA TESOL Program 特任教授

### ■ Profile

William Snyder has worked in teacher education for over 20 years in different countries. His interests center on promoting reflective practice for teachers and classroom engagement for both teachers and students. He is the coordinator of the JALT Teacher Development Special Interest Group.

### ■ Message

Hello! I'm looking forward to sharing some ideas about how create an engaging classroom environment for students and for yourself as a teacher. I invite any teachers who are interested in trying new ways to plan lessons for more active learning and who want to build stronger relationships with their students to attend this session.

## 開催会場 グランシップ 静岡県コンベンションアーツセンター

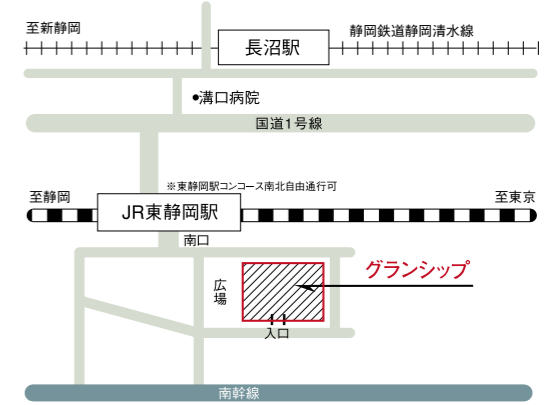
〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4

TEL:090-1126-5324 (開催事務局)

<http://www.granship.or.jp>

■ JR東静岡駅南口から徒歩約3分、静岡鉄道長沼駅から徒歩約10分  
※駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

受付 10F



SH-3	対象	小学校・中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ワークショップ／ディスカッション
	講義言語	英語
	講座カテゴリ	III

## The Social Brain : Stimulating and Attracting It in Our Language Classes 社会脳:言語授業で社会脳を刺激・魅了する

This presentation will look at simple neuroscience findings to help teachers understand why it is crucial to create a safe and welcoming environment for students to challenge themselves within. No previous knowledge about neuroscience is necessary. If you are a caring teacher and want to understand your students better, please come. I will also offer many activities that you could do in your classes to help low level learners engage themselves in more communication and expand their learning potentials, while at the same time engaging advanced learners in the classroom.

Come ready to interact with partners, move a bit, and sing a bit! And to have lots of fun.



Tim Murphey ティム マーフィー

神田外語大学外国語学部英米語学科教授

### ■ Profile

Tim Murphey (PhD Université de Neuchâtel, Switzerland) is co-author of Group Dynamics in the Language Classroom (OUP), co-editor with Jane Arnold of Meaningful Action (CUP) and the author of Teaching One to One, Music and Song, Language Hungry!, The Tale that Wags, and Teaching in Pursuit of WOW!

### ■ Message

Welcome! I have been training teachers for 40 years and teaching students for 45. I love teaching and I love working with teachers. I will try my best to adjust to your needs and desires and to understand how I can best help you have the kind of classes that help students optimally, keeping them safe and excited about learning.

SH-4	対象	小学校・中学校・高校教員
	講義タイプ	ワークショップ
	講義言語	英語
	講座カテゴリ	III

## Classroom Tasks for English Learners: Design Principles, Teacher Roles, and Assessment 英語学習者のための学習課題作成の原則、教員の役割、及び評価

Task-based language teaching (TBLT) is a research-based approach to language pedagogy centered on meaning-making, communication, and clearly defined outcomes. Ideally, communication tasks are designed to engage student thinking and support real-world language use. Communication tasks can foster receptive (listening and reading) and/or productive (speaking and writing) skills in a foreign language. Furthermore, TBLT is compatible with contemporary approaches to classroom language assessment and the use of technology in education. This workshop aims to: (1) familiarize participants with principles of task design, (2) help them critique examples of tasks, and (3) introduce them to task-based assessment (i.e., using can-do statements). Workshop participants will learn about these areas by actively listening to brief lectures. They will also apply concepts introduced during the workshop in small groups and evaluate material that could be used in their classrooms. Various sample materials will be presented and discussed in order to enhance participants' understanding. There will be consideration of recent research; however, the focus throughout will be heavily practice-oriented. This workshop considers practical innovations based on TBLT that can be implemented in English as a foreign language classrooms in Japan.



Daniel Jackson ダニエル ジャクソン

神田外語大学外国語学部英米語学科准教授

### ■ Profile

Daniel received his Ph.D. in Second Language Studies from the University of Hawaii at Manoa and his M.S. in Education/TESOL from the Graduate School of Education at the University of Pennsylvania. He is currently an Associate Professor in the English Department at Kanda University of International Studies.

### ■ Message

Please join this workshop if you are interested in learning about how to use tasks to enhance your teaching and your students' learning and if you would like to meet others who share your interest. In keeping with task-based principles, I hope to encourage you to think and to communicate so that you arrive at viable means of implementing the ideas we discuss in your own classrooms.



# 東京 7/29 (土) 30 (日)

## TOKYO 会場

10:00~17:20 (受付開始: 9:30)

Time Schedule	10:00~12:00	AM
	13:00~15:00	PM1
	15:20~17:20	PM2

※昼食はご持参いただくか、近隣の飲食店をご利用ください。

主催 神田外語グループ

基調講演	伯井 美徳 はくい よしのり 独立行政法人大学入試センター理事・副所長	定員 200名	7/29(土)	7/30(日)
	大学入試における英語4技能評価の推進について		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-1	土屋 進一 つちや しんいち 埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	コミュニケーション英語I~IIIの具体的指導例 ~ Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで ~		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-2	大野 理智子 おおの りちこ 秋田県湯沢市立山田中学校教諭	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	どの生徒も主体的に学び合える英語授業の仕掛け		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-3	William Snyder ウィリアム スナイダー 神田外語大学大学院言語科学研究科英語学専攻 MA TESOL Program 特任教授	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Principles and Practices for Engagement in the Language Classroom 言語授業運営の原則と実践		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-4	Tim Murphey タイム マーフィー 神田外語大学外国語学部英米語学科教授	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	The Social Brain: Stimulating and Attracting It in Our Language Classes 社会脳:言語授業で社会脳を刺激・魅了する		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-5	Jonathan Anzai 安西 ジョナサン / Jason Wolfe ジェイソン ウルフ 開智日本橋学園中学校日本橋女子館教諭	定員 20名	7/29(土)	7/30(日)
	Learning Scratch from Scratch! 英語でプログラミング - スクラッチの基礎 -		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-6	須藤 達也 すどう たつや 神田外語大学外国語学部英米語学科講師 駒澤大学講師	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	英語落語で英語を楽しむ		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-7	Daniel George Dusza ダニエル G. ドゥーサ 神田外語学院EIC (国際コミュニケーション英語) 講師	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Content and Language Integrated Learning Across the Japanese Curriculum for Beginners 日本人初級学習者のためのCLILカリキュラム		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-8	Sean Green ショーン グリーン 神田外語学院専任講師	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Easy, Practical Activities to Improve Student Motivation and Participation 学習者の動機付けと積極的参加を促す簡単で実践的な学習活動		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2

## 開催会場 神田外語学院

〒101-8525 東京都千代田区内神田2-13-13  
TEL:090-1126-5324 (開催事務局)  
<http://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/>

受付 本館1F

交通アクセス

- JR神田駅西口から徒歩2分
- 東京メトロ神田駅1番出口から徒歩3分
- 東京メトロ大手町駅A2出口・淡路町駅A1出口、都営地下鉄小川町駅A1出口から徒歩7分

※駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関をご利用ください。




KA-9	府川 哲子 ふかわ てつこ 神田外語大学ELI 語学専任上級講師	定員 20名	7/29(土)	7/30(日)
	オンライン教材をフル活用: 目指せ発音の弱点克服		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-10	Erin Morris エリン モリス 神田外語学院専任講師	定員 20名	7/29(土)	7/30(日)
	Inspiring Students to Write and Speak through Technology and Motivational Exercises テクノロジーと動機付け活動を使ってライティングとスピーキングを促す		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-11	Javier Salazar ジャビア サラザー 神田外語学院EIC (国際コミュニケーション英語) 講師	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Strategic Competence: Developing English Communication Skills in Beginner and Low Level Students 初級・低級学習者のコミュニケーションスキルを伸ばす方略的能力		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-12	Daniel George Dusza ダニエル G. ドゥーサ 神田外語学院EIC (国際コミュニケーション英語) 講師	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Integrated Social-Media and Information Communications Technology in Japanese EFL Classes 日本のEFL授業で使えるソーシャルメディアとICTの統合使用		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-13	南部 匡彦 なんぶ ただひこ 国際短期大学国際コミュニケーション学科准教授	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	高大接続の視点からのTOEIC® 学習の活用法		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-14	青山 智恵 あおやま ともえ ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門 日本統括マネージャー	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Cambridge English Speaking Test (ケンブリッジ英語検定) の評価におけるルーブリックの実践 ~ スピーキング試験官認定トレーニングの一部体験と明日から使える授業のヒント ~		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-15	Kieran Julian キーラン ジュリアン 神田外語学院EIC (国際コミュニケーション英語) スーパーバイザー	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Involving Students in the Assessment Process through Can - Do Statements and Digital Technology 記述とデジタルテクノロジーで学習者に自己評価させる		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2
KA-16	Andy Lankshear アンディー ランクシャー 郡山ギバリオ学園専任教員 神田外語大学児童英語教育研究センター研究員	定員 30名	7/29(土)	7/30(日)
	Assessing Young Learners 子供の英語スキルを評価する		AM PM1 PM2	AM PM1 PM2

基調講演	対象	小学校・中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー
	講義言語	日本語

### 大学入試における英語4技能評価の推進について

- ・小学校、中学校、高校段階における英語教育の抜本的な強化  
～2020年から順次実施される新学習指導要領について
- ・大学入試における英語4技能評価の現状と評価推進の必要性  
～英語コミュニケーション能力の育成と、いわゆる「受験英語」とのかい離の現状
- ・具体的な英語4技能評価の推進方策と課題  
～文部科学省は民間の英語資格・検定試験を活用した英語4技能評価を促しているが、2020年新共通テストの枠組みにおいて、具体的にどのような方法で、このことを推進するのか。また、課題は何か。



**伯井 美德** はくい よしのり  
独立行政法人大学入試センター理事・副所長

■ Profile  
神戸大学法学部卒、昭和60年文部省入省。宮城県教委総務課長、初等中等教育局企画官、横浜市教育長、文部科学省教科書課長、教育課程課長、大臣官房審議官(高大接続・初中局担当)などを経て、平成28年4月から独立行政法人大学入試センター理事・副所長に就任。

■ Message  
こんにちは、大学入試センターの伯井美德です。当センターでは、現行の大学入試センター試験に代わり導入される2020年新共通テストの円滑な実施に向けて様々な検討準備を行っています。今回の講演では、入試改革の目玉の一つである英語4技能評価について、推進の趣旨と現状、具体的な方策、課題などについて、できるだけわかりやすく説明したいと思います。よろしくお願ひします。

KA-3	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ワークショップ
	講義言語	英語
	講座カテゴリー	Ⅲ

### Principles and Practices for Engagement in the Language Classroom 言語授業運営の原則と実践

This session will introduce teachers to basic principles for promoting engagement – goal setting; balancing challenge and skill; and providing feedback -- that they can apply in planning their lessons. We will try out some activities designed with these principles in mind and discuss how effective they are at creating engagement. I will also talk about how a regular program of asking students questions about their learning can help engage both teacher and students, and present a procedure for sharing results with students in order to build stronger relationships with them. We will work together on generating a list of questions that can be used by teachers in many classes.



**William Snyder** ウィリアム スナイダー  
神田外語大学大学院言語科学研究所英語学専攻  
MA TESOL Program 特任教授


■ Profile  
William Snyder has worked in teacher education for over 20 years in different countries. His interests center on promoting reflective practice for teachers and classroom engagement for both teachers and students. He is the coordinator of the JALT Teacher Development Special Interest Group.

■ Message  
Hello! I'm looking forward to sharing some ideas about how create an engaging classroom environment for students and for yourself as a teacher. I invite any teachers who are interested in trying new ways to plan lessons for more active learning and who want to build stronger relationships with their students to attend this session.

KA-1	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ワークショップ
	講義言語	英語・日本語
	講座カテゴリー	I

### コミュニケーション英語I～Ⅲの具体的指導例 ～Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで～

本講座では、高校1年～2年までのコミュニケーション英語I・Ⅱの授業と高校3年のコミュニケーション英語Ⅲの指導例を提示します。具体的には、英文の内容理解後のRetelling や Presentationを成功させるための仕掛け作りや指導の工夫、CLIL型の授業、入試問題を使った生物×英語の教科横断型授業を取り上げ、実際の授業の様子や生徒のプレゼンテーションの様子を視聴してもらう予定です。



**土屋 進一** つちや しんいち  
埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭

■ Profile  
法政大学大学院修了。現在、埼玉県私立西武学園文理高等学校に勤務。15年目。2005年 埼玉私学教育研究所 英語教育研究会 授業研究会 授業者。埼玉私学教育研究所 平成17年度 紀要「セマンティック・マッピングと音読重視の授業」数研出版「CHART NETWORK 83号」2017年9月「入試問題を用いた教科横断授業(生物×英語)」掲載予定。

■ Message  
昨年の講座では、コミュニケーション英語I・Ⅱの授業において、4技能を効率良く取り入れながら、Retelling や Presentationの具体的な指導例を提示しました。今回の講座では、コミュニケーション英語Ⅲの授業にも焦点を当て、教科書本文を指導する際の教材研究のポイントや内容理解後のプロダクション活動への指導方法について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

KA-4	対象	小学校・中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ワークショップ／ディスカッション
	講義言語	英語
	講座カテゴリー	Ⅲ

### The Social Brain : Stimulating and Attracting It in Our Language Classes 社会脳:言語授業で社会脳を刺激・魅了する

This presentation will look at simple neuroscience findings to help teachers understand why it is crucial to create a safe and welcoming environment for students to challenge themselves within. No previous knowledge about neuroscience is necessary. If you are a caring teacher and want to understand your students better, please come. I will also offer many activities that you could do in your classes to help low level learners engage themselves in more communication and expand their learning potentials, while at the same time engaging advanced learners in the classroom.

Come ready to interact with partners, move a bit, and sing a bit! And to have lots of fun.



**Tim Murphey** タイム マーフィー  
神田外語大学外国語学部英米語学科教授

■ Profile  
Tim Murphey (PhD Université de Neuchâtel, Switzerland) is co-author of Group Dynamics in the Language Classroom (OUP), co-editor with Jane Arnold of Meaningful Action (CUP) and the author of Teaching One to One, Music and Song, Language Hungry!, The Tale that Wags, and Teaching in Pursuit of WOW!


■ Message  
Welcome! I have been training teachers for 40 years and teaching students for 45. I love teaching and I love working with teachers. I will try my best to adjust to your needs and desires and to understand how I can best help you have the kind of classes that help students optimally, keeping them safe and excited about learning.

KA-2	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	ワークショップ
	講義言語	日本語
	講座カテゴリー	I

### どの生徒も主体的に学び合える英語授業の仕掛け

生徒と教師、または生徒同士が英語をツールとして、メッセージのやり取りを楽しみながらコミュニケーション力を身に付ける実践例や、それを支える活動などを紹介する参加型のワークショップです。新しい学習指導要領のキーワードである「主体的な学び」「対話的で深い学び」に基づいた英語授業の実践例を、ライティング、スピーキングの両面からご紹介します。

① まとまりのある英文が書けるようになる仕掛け  
② どの生徒も意欲的に取り組むディベートの仕掛け



**大野 理智子** おおの りちこ  
秋田県湯沢市立山田中学校教諭

■ Profile  
平成元年より秋田県内の中学校に勤務。第64回全英連秋田大会にて「生徒の目が輝くコミュニケーション～Repeat after me.をTell me more.へ」、第37回全国英語教育学会山形研究大会にて「テキストをもとに読みを深める発問の実践」発表、「成長する英語教師をめざして～新人教師・学生時代に読んでおきたい教師の語り(柳瀬陽介、組田幸一郎、奥住桂 編) ひつじ書房」に原稿執筆。

■ Message  
「教室で学ぶことの意義は何か?」よく生徒に問かけることの1つです。一人ひとりがもっている多様な考えが、それらを互いにシェアし合う事で深まったり広がったりする、それが授業と考えます。得意な生徒も苦手な生徒も、英語という「ことば」をツールとして互いの心を通わせ合える、そんな授業を目指しています。

KA-5	対象	小学校・中学校・高校教員・プログラミングに挑戦したい方
	講義タイプ	ワークショップ
	講義言語	英語・日本語
	講座カテゴリー	I・V・VI

### Learning Scratch from Scratch! 英語でプログラミング –スクラッチの基礎–

このワークショップでは、Scratch(メディアラボが作成した初心者用無料プログラミングソフト)を使いながらプログラミングの基礎知識をお教えます。参加者は、内容言語統合学習を通じて、簡単なアニメーション、ゲームやオリジナルのクイズプログラムを学びます。また、プログラミングの実践を通して、問題解決能力を身につけられます。

ステージI (30分) Scratchの基礎  
ステージII (30分) グループで初めてのゲームプログラムを作る  
ステージIII (40分) マイ・ファスト・プログラム!  
ステージIV (20分) Show and Tell (ミニ発表会)



**Jonathan Anzai** 安齋ジョナサン (左)  
**Jason Wolfe** ジェイソン ウルフ (右)  
開智日本橋学園中学校・日本橋女学館教諭

■ Profile  
安齋ジョナサン(教諭)は現在国際バカロレアの候補校(中等教育プログラム)で英語と社会を教え、さらにICT推進チームを担当しています。ジェイソンウルフは同じ中学校で、英語と技術・家庭科(デザイン)を担当しています。

■ Message  
皆さんは技術がお好きでしょうか。プログラミングの基礎を学びたいと思ったことはありますか。ぜひ新しい技能を身につけ、教育の現場で活かしてください。このワークショップでは、プログラミングの基礎を学ぶと共に実際にプログラミングを経験することでしっかりと技能を身につけることができます。未経験者大歓迎です。失敗を恐れずみんなで楽しく学び合ひましょう。学ぶことは何歳からでも遅すぎるといふことはありません。年齢は問いませんので、ぜひたくさんの方に参加頂きたいと思ひます。

## KA-6

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ／レクチャー
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	V

### 英語落語で英語を楽しむ

最近、落語が漫画やアニメで取り上げられるなどして、若者にも落語に興味を持つ者が増えています。国語や英語の教科書にも取り上げられて、教育的にも注目されています。そこで、この講座では、落語を演じる場合の基本と、落語の理解に必要な知識を英語で学びます。日本の伝統文化と英語をセットで学ぼうという講座です。まずは、演じる際に最も大切な上下(かみしも)の規則、登場人物の演じ分け、それから扇子と手ぬぐいの使い方、の3つを学びます。次に、「時そば」を題材にとって、この噺の背景を学びます。実際、中学の英語の教科書に「時そば」がとりあげられています。時そばを理解するために必要な、江戸時代の時間や貨幣制度などを英語で説明してみます。また、上方では時うどんで、若干違うので、上方落語と江戸落語の違いについても解説します。その後、全員で時そばのさわりをやってみます。希望者があれば、高座に座っていただき、皆の前でやってみていただきたく思っています。その他、小噺をいくつかとりあげたいと思います。最後、私が1、2席、実演します。

扇子と手ぬぐい持参(どんなものでも結構です)  
以下のサイトを事前にご覧になることをお勧めします。  
http://school.jorudan.co.jp/eigolike/pc/rakugo/index.php(英語いいね!)  
Looking for Laughs in Tokyo (NHK World TV)

## KA-7

対象	小学校・中学校教員
講義タイプ	レクチャー
講義言語	英語
講座カテゴリー	V

### Content and Language Integrated Learning Across the Japanese Curriculum for Beginners 日本人初級学習者のためのCLILカリキュラム

During this interactive seminar, participants will be introduced to a wide-range of program types and contexts comprising content-and-language integrated learning (CLIL).

First, an instructional approach that integrates both language and content will be presented. This will form the basis for reflecting critically on established pedagogical practices, which focus predominantly on content, and the expectation that learners simply 'pick up' the language.

- Topics include:
1. Contrasting features of CLIL and other approaches.
  2. Pedagogical issues relating to a "counterbalanced approach" that integrates both language and content.
  3. Scaffolding techniques in response to learners' language production that includes when, what, and how to correct.
  4. Appreciation of the importance that scaffolding has in supporting student participation while holding oral interaction as the key source of learning.
  5. Planning noticing and awareness activities, followed by providing guided and independent practice.

The seminar will include interactive lecture segments, followed up by questions and tasks, which participants will acquire from content covered in the seminar. Participants will develop an understanding how shifting learners' attention between content and language increases depth of processing and strengthens metalinguistic awareness. Finally, participants will examine the importance of teacher collaboration in the future success of CLIL in Japanese schools.

Please bring iPads or Smartphones.

## KA-8

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	II

### Easy, Practical Activities to Improve Student Motivation and Participation 学習者の動機付けと積極的参加を促す簡単で実践的な学習活動

Warm up – Activity for pronunciation and tongue twister.  
Interview – Interviewing a classmate using a worksheet.  
Writing – Writing a short introduction of your partner, using a template.  
Peer Review – Having another student review and ask questions.  
Lecture / Demo – Several ways of sharing, including class newsletter or website will be demonstrated.  
Haiku Writing – Learning about meter and rhyme.  
Vocabulary Cards - Creativity and Thinking outside the box \*if time allows.



### 須藤 達也 すどう たつや

神田外語大学外国語学部英米語学科講師  
駒澤大学講師

#### ■ Profile

上智大学外国語学部卒業、テンブル大学修士課程修了。  
神田外語大学・駒澤大学講師、英語落語教室主宰。  
国内、国外で英語落語のパフォーマンスとワークショップを行っています。また、ウクレレで日本の音楽を英語で歌う活動もしています。高座名は鹿鳴家英楽(かなりや・えいらく)。

#### ■ Message

今、漫画やアニメの影響でちょっとした落語ブームが起きています。また、国語や英語の教科書にとりあげられ、教育界でも注目されています。落語を通して、英語の面白さ、あるいは日本の伝統文化の面白さを英語で伝えることができたらと思っています。



### Daniel George Dusza ダニエル G. ドゥーサ

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師

#### ■ Profile

Daniel G. Dusza. MEd, MBA, MPM, BEng  
Master of Education TESOL/TEFL – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Business Administration – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Project Management – University of Southern Queensland, Australia.  
Bachelor of Engineering (Computing and Biomedical Engineering - University of Southern Queensland, Australia.

#### ■ Message

Participants will be introduced to a wide range of program types and contexts comprising content-and-language integrated learning (CLIL). Benefits and challenges of learning language through content will be presented based on empirical research in primary, secondary and tertiary classes. This research supports an instructional approach that integrates both focus on language and content. This interactive seminar proposes that for CLIL to reach its full potential in developing high levels of target language proficiency, it must be both language-rich and discourse-rich.



### Sean Green ショーン グリーン

神田外語学院専任講師

#### ■ Profile

EIC Instructor, supervisor of TOEIC Speaking / Writing Test Courses. I have been teaching in Japan for more fifteen years, and have taught all levels and ages, from children and junior-senior high school students to post-secondary students and professionals. My background is in journalism and marketing and I especially enjoy teaching writing.

#### ■ Message

Do you sometimes have trouble keeping students motivated and interested? This workshop will give you fun, easy-to-run activities proven to work. They will promote communication and learning and include everything you need to go back and use them in the classroom. Includes a warm-up, a peer interview activity, writing and peer-review activities and much more!

## KA-9

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	レクチャー／ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	II

### オンライン教材をフル活用：目指せ発音の弱点克服

このワークショップでは大学で実際に教えている発音のクラスの教材一学期分を使用しながら、各国特有の、所謂アクセントを習得するのではなく、いかに国際英語としての他者に理解してもらえ英語発音に近づけるかという所を目標に行います。教材は多様な物を使用し、オンライン教材と配布資料で、最初に日本人が不得意とする内容について学習し、その学習内容をアクティビティーなどで実践していただき、自身の発音の弱点を見つけ、それを改善するというものです。取り上げる内容は以下の通りです。  
Stress in words and sentences, /r/ & /l/, vowels, connected speech, "th" sounds & other difficult consonants.

普段使用しているイヤホン／ヘッドホンが有ればご持参ください。

## KA-10

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	II

### Inspiring Students to Write and Speak through Technology and Motivational Exercises テクノロジーと動機付け活動を使ってライティングとスピーキングを促す

As we move forward into a more globalized world, English is becoming increasingly important for Japanese students to actually acquire. This collaborative workshop aims to help teachers motivate their students to learn English through speaking and writing activities. Teachers will have the opportunity to participate in some discussions on their experiences and help one another find solutions to common classroom obstacles.

This workshop will also explore the importance of universal design learning and how to create classroom lessons that will help a greater number of students learn through different creative and practical methods.

This program will be broken up into two parts, with one hour focused on speaking activities and the other on writing activities. During the writing portion, we will concentrate on the benefits of fluency writing and show the motivational effects it can have in the classroom. By using technology as a tool, teachers have the chance to change both the experiences and the opinions that students have when writing in English. The speaking segment will also feature technological and traditional activities that can be used in either small or large classrooms, in order to inspire and motivate students to learn.

1. Please bring some extra paper and a pen or pencil with you to the session.
2. It is not required, but if possible please also bring a smartphone/a technological device (iPad, tablet, etc.)

## KA-11

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	レクチャー／ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	II

### Strategic Competence: Developing English Communication Skills in Beginner and Low Level Students. 初級・低級学習者のコミュニケーションスキルを伸ばす方略的能力

Successful and effective communication in English doesn't necessarily require impeccably perfect grammar or vocabulary. Of course, it is undeniable that we need to teach our students the grammar and vocabulary skills that are needed for them to be able to communicate, but in this seminar I will argue that this is not enough. Strategic competence, in the other hand, is a communication skill that, although equally important (or arguably, even more important) than grammar & vocabulary, is rarely taught in English classrooms in Japan. It refers to the ability of a language learner to communicate in English by effectively conveying his or her thoughts in spite of the limitations he or she may have in grammar or vocabulary. On this seminar, we will examine the notion of "strategic competence" by explaining what sort of activities and teaching strategies can be used for developing this skill. In addition, we will give some pointers on how to evaluate this skill on speaking tests, giving examples of the kind of rubrics that are useful for assessing communication skills in beginner and low level students.



### 府川 哲子 ふかわ てつこ

神田外語大学ELI 語学専任上級講師

#### ■ Profile

神奈川県出身、都内私立大学文学部英文学科を卒業後、中学校・高等学校英語科の教員免許を取得。在学時には米国州立大学で英語教育学部に交換留学生として1年在籍。米国Monterey Institute of International StudiesにてMA TESOLを取得後、神田外語大学English Language Institute(ELI)にて勤務。現在はELI語学専任上級講師、及び、ELIプロジェクトコーディネーターとして教鞭をとり、研究を行い、カリキュラムと指導要綱の考案に携わる。

#### ■ Message

神田外語大学ELIの府川です。毎年沢山の方に私のワークショップに参加していただき、感謝申し上げます。今年のワークショップでは、「今後英語教育を英語で行う」という指導方法で多くの教員の方が心配要素と捉えている「発音」に注目し、教員のスキルアップを中心に展開したいと考え、教員の英語発音向上を目的とした2時間集中講座を行います。勿論、そのままクラスで使える生徒用の発音アクティビティー等も紹介します。毎年同様、参加者の希望をなるべく取り入れたいと思っていますので、発音に関する疑問、心配等を是非講座に持ってきてください。



### Erin Morris エリン モリス

神田外語学院専任講師

#### ■ Profile

Erin Morris is currently a Full-time English Lecturer at KIFL. She is a former ESL middle school teacher and has experience teaching English to students of several different age levels.

#### ■ Message

Hello, My name is Erin Sachiko Morris. Please call me Erin or Sachiko. In my workshop, I hope to help you develop a classroom centered around Universal Design Learning, while providing successful activities to help motivate your students. This interactive workshop will feature writing and speaking activities that participants will be able to experience first-hand. My goal is to help you cultivate a classroom that not only inspires your students, but also changes the way they think about learning English.



### Javier Salazar ジャビア サラザー

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師

#### ■ Profile

Javier currently teaches at Kanda Institute of Foreign Languages and Tsukuba University. He has taught English to Japanese learners of all levels, from PreK-12 to Graduate School (and everything in between). His main research interests are Gamification, SRL, strategic competence and the use of humor in the classroom.

#### ■ Message

As a teacher, have you ever struggled with helping your students overcome their fear of making mistakes when speaking in English? As a student, do you feel that it is difficult for you to communicate in English because of insufficient knowledge of Grammar & Vocabulary? If you answered yes to these questions, then this seminar is for you. The objective is to teach you the notion of strategic competence and why it is important for the development of communication skills.

## KA-12

対象	小学校・中学校教員
講義タイプ	レクチャー
講義言語	英語
講座カテゴリー	VI

### Integrated Social-Media and Information Communications Technology in Japanese EFL Classes 日本のEFL授業で使えるソーシャルメディアとICTの統合使用

Social media started out as an exciting way to connect with friends, but has now evolved into a powerful educational tool. New and exciting ways of using social media including Facebook, Twitter, and Skype will be explored in this workshop, within the context of Japanese elementary students' learning opportunities.

The session will first, include an interactive lecture defining current technology and terminology used in information and communications technology (ICT). Second, an overview of popular social media will be presented in the context of its effectiveness to second language education in Japan. This overview will be followed by a brief lecture on technology integration including these topics.

1. What is integration is and how should it transform learning?
2. How to assess ICT and e-materials.
3. Teacher integration experiences from empirical research.

These items form the stimulus to main workshop activities.

1. Discussion on participants' integration experiences.
2. ICT integration approach to an elementary school English lesson-plan.
3. Final discussion.

This workshop addresses issues that underpin effective ICT integration in Japanese English Language (EFL) classes, across the entire English Foreign Language curriculum. Given the MEXT (2013) directive to introduce English education from Grade-3, this workshop has significance to all EFL teachers.

Please bring iPads or Smartphones.

## KA-13

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語・日本語
講座カテゴリー	IV

### 高大接続の視点からのTOEIC®学習の活用法

この講座では、まず英検やセンター試験との相違点を徹底的に明確にしなが、「TOEIC®で出来ること、出来ないこと」をまずご説明させて頂きます。そして特に以下の視点を通じて、生徒が英語コミュニケーションへの関心を高めつつTOEIC®スコアを上げるための指導法をご紹介します。

- ・ TOEIC®リスニングセクションのペアワーク学習を通じた日常会話力向上
- ・ カタカナ(借用)頻出語とTOEIC®学習
- ・ 頻出句動詞を活用したTOEIC®語彙学習方略
- ・ 機能語と内容語に焦点を当てたTOEIC®リスニング指導
- ・ TOEIC®音声教材作成における音声編集ソフトの活用の紹介

## KA-14

対象	中学校・高校教員
講義タイプ	レクチャー／ディスカッション
講義言語	日本語
講座カテゴリー	IV

### Cambridge English Speaking Test(ケンブリッジ英語検定)の評価におけるルーブリックの実際 ～スピーキング試験官認定トレーニングの一部体験と明日から使える授業のヒント～

昨年、過去1年間の日本における英語関連の検索ワードの中で「ケンブリッジ英語検定」が上位に入るなど、確実に注目を浴びてきている背景には、次期学習指導要領で示されている5領域や大学入試の改革を見据えた英語4技能外部試験の活用の拡がりがあります。本講座では、次のような内容を中心にお届けします。

- ・ CEFR完全準拠「ケンブリッジ英語検定」の特長に関するブレゼン(CEFRとの関係、学習指導要領との親和性、国際比較、パフォーマンス評価基準等)
- ・ 次期学習指導要領を先取りした、対面式ペア型面接のご紹介と、スピーキングテストの試験官用トレーニング疑似体験(小グループでディスカッション)

また、長年指導主事として英語の先生の指導スキル向上に携わってこられた北星学園大学短期大学部講師の白鳥金吾先生にご登壇いただき、ケーススタディの発表をしていただきます。英語の先生の視点でケンブリッジの試験ならびに教材unlockを紹介いただくことで、4技能評価の重要性や、アクティブラーニングのための教科書の利用についてお話し頂く予定です。

その他、ケンブリッジのサイトにある無償教材に関する情報をいくつかご紹介させていただきます。

- 【例】
- ・ 無料の自動添削WebシステムWrite & Improveの授業内外での活用(ライティング対策)
  - ・ バーチャルリアリティー技術を活用したスピーキングテスト対策(553語)

個人情報の関係上、録音・録画はご遠慮ください。



### Daniel George Dusza

ダニエル G. ドゥーサ

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)講師

#### ■ Profile

Mr. Daniel G. Dusza. (MEd, MBA, MPM, Beng)  
Master of Education TESOL/TEFL – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Business Administration – University of Southern Queensland, Australia.  
Master of Project Management – University of Southern Queensland, Australia.  
Bachelor of Engineering (Computing and Biomedical Engineering - University of Southern Queensland, Australia.

#### ■ Message

Social media has emerged as a powerful educational tool. However, integrating these information communication technologies (ICT) requires preparation and resources, and involves risks, that have not been adequately addressed in the Japanese context. Given that English education will start earlier in Japanese elementary schools, it is imperative that every teacher be aware of the specific opportunities and benefits available to these younger learners. This workshop introduces inspirational and effective approaches to integrated technology and social-media in Japanese school EFL lessons.



### 南部 匡彦

なんぶ ただひこ

国際短期大学国際コミュニケーション学科准教授

#### ■ Profile

慶応義塾大学環境情報学部卒業。慶応義塾大学大学院修了。欧州にて約10年間、民間コンサルティング企業での勤務を経て帰国、大学及び専門学校にて英語・仏語・ビジネス専門教育に従事。2013年より現職、主にTOEIC®科目を担当。一般社団法人日本メディア英語学会理事。研究分野は、リスニング、信用語研究、異文化コミュニケーション。

#### ■ Message

TOEIC®は中学校・高等学校では導入事例がまだ少ないので、就活や大学・企業で主に活用されている外部テストというイメージが中学校・高校教員の皆様にはまだ支配的かもしれません。しかし、「日常生活と職場での英語コミュニケーション能力を測定する」TOEIC®テストを高大接続の観点から俯瞰した場合、「読む・書く・聞く・話す」の4技能のバランス良い指導を可能にする有効なツールとも実は捉えることが出来ます。この講座では、受講者の皆様とワークショップを通じて、生徒が英語学習にアクティブに取り組める仕掛けとしてのTOEIC®英語教育導入の可能性を共に考えて行きたいと思えます。



### 青山 智恵

あおやま ともえ

ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門  
日本統括マネージャー

#### ■ Profile

筑波大学第一学群人文学類卒業。民間企業勤務後、英国バース大学にてM.A.取得。約10年間のブリティッシュ・カウンシル勤務を経て、現在ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門日本統括マネージャーとしてCEFR完全準拠のCambridge English(ケンブリッジ英語検定)の販促、日本市場向け自動採点による4技能CBT英語試験の開発等に携わる。文部科学省「英語力評価及び入学選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」委員。

#### ■ Message

英国の大学院でケンブリッジ英語検定に出会い、「これぞ死なぬ英語運用能力試験!」と実感して以来、現在ではその魅力をお伝えする役目を担っています。次期学習指導要領では国の指標形式の目標において4技能がさらに進化して5領域になる予定ですが、ケンブリッジ英語検定のスピーキングテストは国際基準(CEFR)に照らして「話すこと(やりとり:interaction)」、「話すこと(発表:production)」が既に測定領域として取り入れられているため、新学習指導要領にも対応済みといえます。現在、外部試験を入試に活用する大学の多くが基準に用いているCEFRのB1とはどんなレベル?CEFRの開発に貢献しているケンブリッジだからこそ示せる基準を体感してみてください。

## KA-15

対象	高校教員
講義タイプ	レクチャー
講義言語	英語
講座カテゴリー	VI・VII

### Involving Students in the Assessment Process through Can – Do Statements and Digital Technology 記述とデジタルテクノロジーで学習者に自己評価させる

The principal aim of assessment should be to improve students learning. In order for this to happen students must not only be aware of their learning objectives but also must be empowered to take responsibility for their own learning and success.

This seminar will provide practical methods of how to encourage and support student learning via the assessment process. Providing the opportunity for students to reflect upon their learning via the use of Can – Do Statements.

The seminar will also look at how the introduction of digital technology has a key part to play in the self - reflective process.

## KA-16

対象	小学校・中学校・英会話講師
講義タイプ	ワークショップ
講義言語	英語
講座カテゴリー	VII

### Assessing Young Learners 子供の英語スキルを評価する

In this workshop I will argue that the assessment of young learners requires different approaches and activities to those that are used with teenagers. This workshop will start by introducing you to the characteristics of young learners; specifically their levels of literacy, their vulnerability as beginning learners, and their social and cognitive development. I will then introduce to you assessment practices and activities that are: targeted at their correct literacy levels; designed to increase success; and appropriate for their social and cognitive developmental stages. These assessment practices will include formal, anecdotal and self-assessment activities. I will provide you with examples of each of these types that you can easily use in your classrooms. This workshop will be useful for elementary school teachers who are concerned about how to assess their students for learning and for reporting as required under the expectations of the new curriculum. If you want to be able to give your students the fairest grade according to their abilities and their potential, then please come to join this training session.

1. Can understand some spoken academic English.
2. Can communicate in group tasks using English.



### Kieran Julian

キーラン ジュリアン

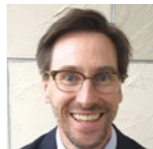
神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)  
スーパーバイザー

#### ■ Profile

Kieran Julian is a curriculum supervisor at Kanda Institute of Foreign Languages. He has a MBA from Anaheim University in California and a MA in TESOL from Sunderland University in the UK. His fields of research are Digital Learning and student Self – Access.

#### ■ Message

Hello, my name is Kieran. I am from the UK, and have lived in Japan for over 10 years. This workshop is designed for teachers who would like to involve students in the assessment process. In this seminar I will share with you how students can take part in the assessment and evaluation process, particularly through the use of Can – Do Statements and Digital Technology.



### Andy Lankshear

アンディー ランクシャー

郡山ザベリオ学園専任教員  
神田外語大学児童英語教育研究センター研究員

#### ■ Profile

Andy Lankshear has been teaching English in Japan since 1998. He was also a primary school teacher in New Zealand and has a MEd from Massey University. Andy is developing elementary teacher training modules as a visiting researcher at the Centre for Teaching English to Children at Kanda University.

#### ■ Message

With the introduction of English as a subject for fifth and sixth grades from 2020, you may be concerned about how to assess your students fairly and in a way that motivates them to continue to learn. In this session you will review the characteristics of young learners and be introduced to assessment activities that are suitable for them and the goals of the new curriculum.

# 大宮 8/4

金

OMIYA

# 会場

10:00~17:20 (受付開始 : 9:30)

Time Schedule	10:00~12:00	AM	OM-1 / OM-2
	13:00~15:00	PM1	OM-2 / OM-3
	15:20~17:20	PM2	OM-1 / OM-4

※「AM」と「PM1」を続けて受講される方には、お弁当をご用意いたします。

主催 神田外語グループ

OM-1	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	ワークショップ／研修
	講義言語	英語・日本語
	講座カテゴリー	I

## コミュニケーション英語I～Ⅲの具体的指導例 ～Retelling, PresentationからCLIL型授業、教科横断型授業まで～

本講座では、高校1年～2年までのコミュニケーション英語I・IIの授業と高校3年のコミュニケーション英語Ⅲの指導例を提示します。具体的には、英文の内容理解後のRetelling や Presentationを成功させるための仕掛け作りや指導の工夫、CLIL型の授業、入試問題を使った生物×英語の教科横断型授業を取り上げ、実際の授業の様子や生徒のプレゼンテーションの様子を視聴してもらう予定です。



土屋 進一 つちや しんいち

埼玉県私立西武学園文理高等学校英語科教諭

### Profile

法政大学大学院修了。現在、埼玉県私立西武学園文理高等学校に勤務。15年目。2005年 埼玉私学教育研究所 英語教育研究会 授業研究会 授業者。埼玉私学教育研究所 平成17年度 紀要「セマンティック・マッピングと音読重視の授業」数研出版「CHART NETWORK 83号」2017年9月「入試問題を用いた教科横断授業(生物×英語)」掲載予定。

### Message

昨年の講座では、コミュニケーション英語I・IIの授業において、4技能を効率良く取り入れながら、Retelling や Presentationの具体的な指導例を提示しました。今回の講座では、コミュニケーション英語Ⅲの授業にも焦点を当て、教科書本文を指導する際の教材研究のポイントや内容理解後のプロダクション活動への指導方法について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

OM-2	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ディスカッション
	講義言語	英語・日本語
	講座カテゴリー	Ⅲ

## グローバル社会に必要な「英語コミュニケーション能力」とは？ ～世界における英語コミュニケーションの実態に基づいて～

‘World Englishes’や‘English as a lingua franca’ということばを聞いたことがありますか。グローバル社会の現在、英語ほど「国際共通語」として幅広く使用されている言語はありません。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に連関して多様化した様々な英語変種を生み出しました。イギリス、アメリカ等の英語を母語とする国々にも様々な方言が存在しますが、インド、シンガポール等のアジア諸国にも多様な英語変種が存在し、これらはWorld Englishesと複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような場で英語は文化背景の異なる者同士の共通語(a lingua franca)として頻繁に用いられています。本講座では講義に加え、クイズやリスニング、ディスカッション等の活動を通して、世界における英語コミュニケーションの実態について理解を深めていきます。前半は英語の国際的普及の要因や英語変種の特徴を、後半は国際的な場での英語コミュニケーションの事例を厳選して紹介します。これら英語を取り巻く現実を踏まえ、グローバル社会に必要な「英語コミュニケーション能力」とは何か、その育成には今の英語教育に何が必要かについて参加者同士の意見交換を通して考えていきたいと思います。授業で使用可能な音声教材も紹介します。ディスカッションを多く取り入れますので、積極的にご参加ください。



小中原 麻友 こなかはら まゆ

神田外語大学外国語学部英米語学科専任講師

### Profile

英国エセックス大学大学院にて応用言語学修士号、早稲田大学大学院にて博士号(学術)を取得。2012年より、ものづくり大学、早稲田大学、明治大学、法政大学、中央大学にて英語教育や専門教育に従事。2016年に神田外語大学英米語学科に着任。専門研究分野は、異文化コミュニケーション、共通語としての英語、語用論、会話分析、社会言語学。

### Message

加速するグローバル化に対応できる人材を育成するため、日本の中学・高校における英語教育でも総合的なコミュニケーション能力の育成を更に促進しています。では、「グローバル社会」に対応するには、そもそも生徒にどのような「英語コミュニケーション能力」を育成したら良いのでしょうか。みなさん、一度、この一見自明とも思われる概念について、世界における英語コミュニケーションを取り巻く現実を踏まえて考え直してみませんか？

## 開催会場 大宮ソニックシティ

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

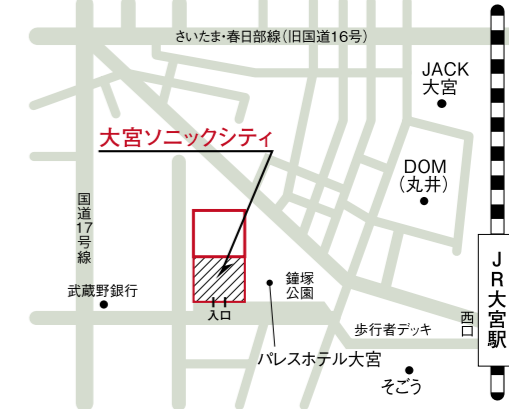
TEL:090-1126-5324 (開催事務局)

http://www.sonic-city.or.jp

■ JR大宮駅西口から徒歩約3分

※駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

## 受付 9F 904会議室



OM-3	対象	中学校・高校教員
	講義タイプ	レクチャー／ディスカッション
	講義言語	日本語
	講座カテゴリー	Ⅳ

## Cambridge English Speaking Test(ケンブリッジ英語検定)の評価におけるルーブリックの実際 ～スピーキング試験官認定トレーニングの一部体験と明日から使える授業のヒント～

昨年、過去1年間の日本における英語関連の検索ワードの中で「ケンブリッジ英語検定」が上位に入るなど、確実に注目を浴びてきている背景には、次期学習指導要領で示されている5領域や大学入試の改革を見据えた英語4技能外部試験の活用の拡がりがあります。本講座では、次のような内容を中心にお届けします。

- ・CEFR完全準拠「ケンブリッジ英語検定」の特長に関するプレゼン(CEFRとの関係、学習指導要領との親和性、国際比較、パフォーマンス評価基準等)
- ・次期学習指導要領を先取りした、対面式ベア型面接のご紹介と、スピーキングテストの試験官用トレーニング疑似体験(小グループでディスカッション)

また、長年指導主事として英語の先生の指導スキル向上に携わってこられた北星学園大学短期大学部講師の白鳥金吾先生にご登壇いただき、ケーススタディの発表をしていただきます。英語の先生の視点でケンブリッジの試験ならびに教材unlockを紹介いただくことで、4技能評価の重要性や、アクティブラーニングのための教科書の利用についてお話し頂く予定です。

その他、ケンブリッジのサイトにある無償教材に関する情報をいくつかご紹介させていただきます。

- 【例】
- ・無料の自動添削WebシステムWrite & Improveの授業内外での活用(ライティング対策)
- ・バーチャルリアリティ技術を活用したスピーキングテスト対策(553語)

個人情報の関係上、録音・録画はご遠慮ください。

OM-4	対象	高校教員
	講義タイプ	レクチャー
	講義言語	英語
	講座カテゴリー	Ⅵ・Ⅶ

## Involving Students in the Assessment Process through Can - Do Statements and Digital Technology 記述とデジタルテクノロジーで学習者に自己評価させる

The principal aim of assessment should be to improve students learning. In order for this to happen students must not only be aware of their learning objectives but also must be empowered to take responsibility for their own learning and success. This seminar will provide practical methods of how to encourage and support student learning via the assessment process. Providing the opportunity for students to reflect upon their learning via the use of Can - Do Statements. The seminar will also look at how the introduction of digital technology has a key part to play in the self - reflective process.



青山 智恵 あおやま ともえ

ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門 日本統括マネージャー

### Profile

筑波大学第一学群人文学部卒業。民間企業勤務後、英国バース大学にてM.A.取得。約10年間のプリティッシュ・カウンシル勤務を経て、現在ケンブリッジ大学英語検定機構試験開発部門日本統括マネージャーとしてCEFR完全準拠のCambridge English(ケンブリッジ英語検定)の販促、日本市場向け自動採点による4技能CBT英語試験の開発等に携わる。文部科学省「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」委員。

### Message

英国の大学院でケンブリッジ英語検定に出会い、「これぞ死角なしの英語運用能力試験!」と実感して以来、現在ではその魅力をお伝えする役目を担っています。次期学習指導要領では国の指標形式の目標において4技能がさらに進化して5領域になる予定ですが、ケンブリッジ英語検定のスピーキングテストは国際基準(CEFR)に照らして「話すこと(やりとり:interaction)」、「話すこと(発表:production)」が既に測定領域として取り入れられているため、新学習指導要領にも対応済みといえます。現在、外部試験を入試に活用する大学の多くが基準に用いているCEFRのB1とはどんなレベル?CEFRの開発に貢献しているケンブリッジだからこそ示せる基準を体感してみてください。



Kieran Julian キーラン ジュリアン

神田外語学院EIC(国際コミュニケーション英語)スーパーバイザー

### Profile

Kieran Julian is a curriculum supervisor at Kanda Institute of Foreign Languages. He has a MBA from Anaheim University in California and a MA in TESOL from Sunderland University in the UK. His fields of research are Digital Learning and student Self - Access.

### Message

Hello, my name is Kieran. I am from the UK, and have lived in Japan for over 10 years. This workshop is designed for teachers who would like to involve students in the assessment process. In this seminar I will share with you how students can take part in the assessment and evaluation process, particularly through the use of Can - Do Statements and Digital Technology.

## 神田外語大学 30th Since 1987

神田外語大学は千葉県の幕張新都心に位置し、英米語、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語といった環太平洋の「言葉と文化」をテーマに、コミュニケーション能力の高い人材を輩出している4年制大学・大学院です。



設立：1987年  
代表者：酒井 邦弥(学長)  
所在地：千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1  
TEL: 043-273-2826  
<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

## 神田外語キャリアカレッジ

神田外語キャリアカレッジ(KGCC)は、企業・官公庁向け語学研修専門機関です。ビジネス英語・英会話、外国人向けのビジネス日本語講座をはじめ、経験豊富な研修コーディネーターがニーズに合わせた研修プランをオーダーメイドでお作りします。さらに、ビジネススキル、TOEIC®、早朝ビジネスコミュニケーション等の「ビジネス英語講座」を開講し、社会人の皆さまのご要望にもお応えしています。



設立：1996年  
代表者：中塚 史生(校長)  
所在地：東京都千代田区内神田2-13-9  
神田外語本部ビル3F  
TEL: 03-3254-7100  
<http://www.kandagaigo.ac.jp/kgcc/>

## 神田外語キッズクラブ

児童英語教室の運営・講師養成、幼稚園・小学校等での英語教育サポートを行っているのが、神田外語キッズクラブ。神田外語グループが持つ外国語の効果的な習得法のノウハウを、児童への英語教育にも活かしています。神田外語キッズクラブが大切にしているのは、人と人との心のふれ合い。言葉のキャッチボールを通じて、英語で積極的にコミュニケーションが図れる能力を培い、自分の意思を伝えることのできる“小さな国際人”を育成しています。



設立：1996年  
運営：株式会社 神田外語文庫  
代表者：庄島 桂子(代表取締役社長)  
所在地：東京都千代田区内神田2-13-9  
神田外語本部ビル4F  
TEL: 0120-154-815  
<http://www.kidsclub.co.jp/>

## 神田外語学院

語学力と専門スキル、そして異文化を理解する心を持ち、世界各国で活躍する人材を育成しています。空港や、国内外のホテル、企業内英語関連部署、観光関連、児童英語教育の現場や国際ビジネスの世界で、約6万人の卒業生が活躍しています。



設立：1957年  
代表者：糟谷 幸徳(学院長)  
所在地：東京都千代田区内神田2-13-13  
TEL: 0120-815-864  
<http://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/>

## British Hills

福島県・羽鳥自然公園の海拔1,000mの森に位置するブリティッシュヒルズ。7万3,000坪の広大な敷地には、マナーハウス(英国荘園領主の館)、クラフトハウスや12世紀から18世紀にいたる建築様式のゲストハウスがあり、中世英国の街の雰囲気を楽しむことができる施設です。



設立：1994年  
代表者：村田 保浩(代表取締役社長)  
所在地：福島県岩瀬郡天栄村田尾芝草1-8  
TEL: 0248-85-1313  
<http://www.british-hills.co.jp/>

## 神田外語アソシエイツ

神田外語アソシエイツ(KGAI)は、学校法人が母体の人材サービス企業です。設立以来、順調に成長し続け、現在では人材サービス分野のみならず外国人講師派遣、通訳派遣、翻訳、自治体・学校の委託業務など、幅広い分野でご利用いただいています。さらに業務の国際化に向けて2008年、米国ニューヨーク州・Career Vision America (YT Resolution Services社)と業務提携契約を結び、日米間で人材の紹介が可能となりました。



設立：1986年  
代表者：進士 慎夫(代表取締役社長)  
所在地：東京都千代田区内神田2-13-9  
神田外語本部ビル2F  
TEL: 0120-372-453  
<http://www.kgai.co.jp/>

## 神田外語いしずる会 について

神田外語いしずる会は、神田外語学院・校友会と神田外語大学・同窓会及び神田外語グループを結ぶ連合組織として、これら各組織相互の交流及び連携を推進するとともに、国際的な貢献事業を支援し、神田外語グループの使命達成及び隆盛発展並びに会員の幅広い分野における活躍及び発展に協力し、もって世界平和の達成に寄与することを目的としております。

# MA TESOL Program



## 現職の先生方を対象とした「英語教育のプロフェッショナル」養成プログラム 東京

HP <http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/tesol/>

### MA TESOL Programの理念

神田外語大学大学院言語科学研究科英語学専攻(修士課程)のMA TESOL Programは、主に現職教員を対象とし、外国語学習・教育の最新理論を明確に理解した上で、自らの教室実践に関して教育学的知見に基づいた意思決定を行うことができる教育者を育成しています。教育現場の多様性と複雑性を認識し、教師が学習者のニーズに適切に対応するために必要な幅広い専門知識・指導法を修得できます。また、一種免許をお持ちの方は専修免許(英語)が取得可能です。2016年より、MA TESOL Programが文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」に認定されました。

### MA TESOL Programの特徴

- 日本で英語教育に携わっている英語母語話者と非母語話者を対象とします。
- 在職のまま通学ができるように、週末と夏休みなどの特定の時期に授業を行います。
- 授業はすべて英語で行われるInteractive(双方向)形式です。
- 募集は年2回です。(9月入学 / 4月入学)
- 通常2年~2年半で修士号を修得可能です。
- 場所は、東京・神田キャンパスになります。
- 教諭一種免許状(英語)保有者は、本修士課程修了時に専修免許状の申請が可能です。

TESOLのエッセンスが1年で学べる「Certificate Program in TESOL」もあります。

### 入学試験日程 (2018年4月生募集)

内容	期間
出願期間	2017年12月4日(月) ~2018年1月17日(水) 必着
書類審査結果通知	2018年1月24日(水)
第二次審査	2018年1月28日(日)
合否通知	2018年2月9日(金)
入学手続き期間	2018年2月13日(火)~2月26日(月)

### Rod Ellis氏 講演会

**日時** 2017年7月7日(金) 18:30~20:00  
**テーマ** 応用言語学者の軌跡  
~著名な学者がどのように今に至ったか~  
**会場** 神田外語学院 3号館7階 PLAZA AZUL  
**詳細・申込方法** MA TESOL Program ホームページより



### Dwight Atkinson氏 講演会

**日時** 2017年7月22日(土) 16:00~17:30  
**テーマ** 教えるとは何か? なぜ教えるのか?  
~Natural Pedagogyの外国語教育への応用~  
**会場** 神田外語学院 3号館7階 PLAZA AZUL  
**詳細・申込方法** MA TESOL Program ホームページより



## 神田外語大学大学院 東京キャンパス MA TESOL Program

〒101-8525 東京都千代田区内神田2-13-13 神田外語学院7号館4階

TEL: 03-3254-3586 木曜~月曜 10:00~18:00(休業日:火曜および水曜) FAX: 03-3254-3585 Email: [tesol@ml.kuis.ac.jp](mailto:tesol@ml.kuis.ac.jp)